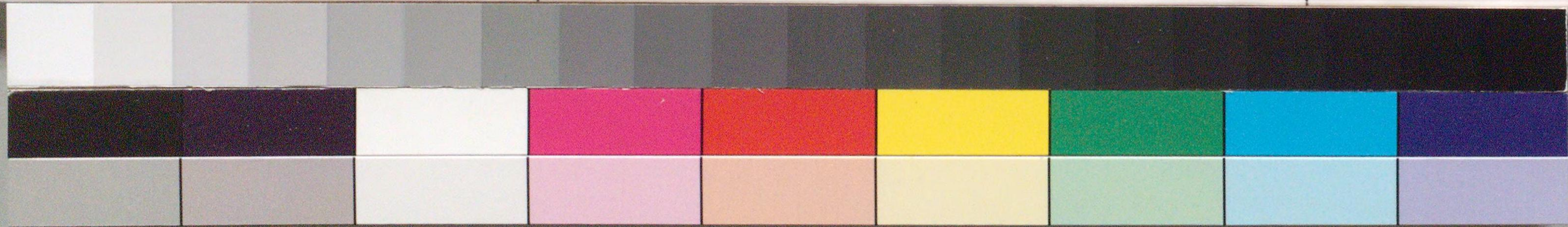


暢懷錄



国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

摘等帖

国立国会
25.9.19
図書館

212899

憲法ノ貴族院



貴族院議員タルモノハ會期中出席スルヲ以テ定
則トス

議員ニシテ行政官ノ職務ヲ奉任スル者其職務

上ノ紀律ニ於テ出席スルヲ許サレモノハ例外ナリ

世襲取柄ノ議員ノ議事ノ議負ニシテ一會期以上

出席不能ナルノ事故アルモノハ却テ出席テ出席ス



コト得ベシ

各議員病故ヲ以テ國席之ハ議長ノ承認ニ任ス

貴族院諸任費トシテ歲額二千~~千~~圓庫

ヨリ支給スベシ

勅^任擢議員ハ歲俸二千四百圓^{給与スベシ}

子男爵及各府縣ヨリ撰舉セラル^ル議員タルモノハ

諸雜費トシテ毎月六百圓ヲ給与スベシ

詔書案 七月草案

朕嚮ニ明治十三年ノ期ニ議會ヲ召集スル

ノ旨ヲ諭示ス今元左院ヲ廢シ先ノ貴族

院ヲ設置シ他日之ヲ~~シテ~~兩院ノ一トシ以テ

他日帝國議會兩院ヲ完成スルノ地ヲ為サシ

ト欲ス茲ニ貴族院攝成法ヲ裁可シ之ヲ公布

セシム

貴族院構成法

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯伯爵

三 子男爵各其同爵ノ選舉

ニタルモノ

四 功勞或ハ學識アル者ヨリ勅

任セラルルモノ

五 各府縣ニ於テ最多額ノ國稅

ヲ納ルル土地ノ有ニ或ハ工業

ヲ營ル者ヨリ互撰シタルモノ

第二條 皇族ノ男子ハ十年ニ達シ議席ニ

列ス

第三條 公侯伯爵ノ男子ニシテ滿二十五歳

ニ達シタルモノハ議席ニ列ス

第四條

子男爵ノ男子ニシテ滿二十五歳

ニ達シ各其同爵ノ選舉ヲ受ケ

タルモノハ十年ノ任期ヲ以テ議

員タルベシ

本條議員ノ數ハ子男爵總數

ノ五分一ヲ超過スヘカラス

第五條

功勞或ハ學識アル滿三十歳以上ノ

男子ニシテ勅任セラレタルモノハ終身

議員タルベシ

第六條

各府縣内ニ於テ滿三十歳以上ノ男

子ニシテ土地ヲ有シ或ハ工商業ヲ營

ニ其所有地或ハ營業ニ付最多額

ノ圍繞ヲ納免者二十五人ノ内ヨリ人

第七條

議長副議長ハ議員中ヨリ勅撰

シ
本條ノ当選者ハ勅旨ヲ以テ同資

格ノ内ヨリ更ニ再選セシムルコトアルハ

シ
シテ撰シ其撰ニ当リタムモノハ五箇年ノ任期ヲ以テ議員タルハ

不當ト者認ムルコトアルハ

第八條

議員文武ノ官職ヲ兼任スルコト得

ス
但武官ニ在リテ現ニ軍隊ノ指揮ヲ掌

リ或ハ軍隊ニ屬スル現役ニ服役スル

モノ文武官ニ在リテハ司法官及職務

年ノ紀律ニ指テ特ニ議員兼任ヲ禁

ミタルモノハ此限リニマラス

212899

第九條

夫學者所以清澄性理，斂揚埃穢，雕鍛鑿璞，鑿鍊也。鈍啓導，聰明飾，染質素，察往知來，博涉勸戒，仰觀俯察，於是乎在。王道於是乎備，進可以為國，退可以保己。是以聖賢罔莫不攷，而勤之夙夜，以勉之命，盡日中而不釋，飢寒危困而不廢。

豈以有求於當世哉誠樂之自然也夫斲
削刻畫之薄伎射御騎乘之易事猶
須習慣然後善況乎人理之曠道德
之遠陰陽之變鬼神之情緬邈玄
奧誠難生知雖去色白匪染弗麗雖
云味甘匪和弗美故瑤華不琢則耀夜之
景不發丹青不治則純鈞之勁不就火則

不鑽不生不扇不熾水則不決不流不積
不深故質雖在我而成之由彼也

神戸諏訪山別業地坪
四面。ハ坪壹合 隣地有田鹿等
持而七拾三坪六分七勺

明治三十四年八月七日岩倉公爵
奉内勅来伊四子邸傳聖意曰
明治十九年改正陸軍編制爰以二
大隊為一聯隊者以三大隊為一聯
隊當時國計不如意故近彌兵
獨不經改兵茲由以至今日於兵制
全體似有缺欲使陸軍大臣要求不足

之費額於議會以補其缺漏期
兵制之完備以為如何宜賜思慮
以所覆奏是勅諭之大意也

八月十五日

岩倉公西討奉旨賜下同

文部大臣奏請仰裁可帝國大
學及文部直轄道子校~~總~~之學

監從前以奏任又判任充之嚮依
官制改定既削^准之今新設勅令
單以奏任充之聖慮未遠可
之宜賜思慮有所覆奏

九月

應徵參內以文武官等不可廢蒙

下同

九月九日

以岩倉公齋就甲子即賜下向
官等之議也

九月十五日

岩倉公奉命來神戸旅寓蒙
下向陸海軍大臣以其將官任
之可否

十月二十三日參内謁見

十月十日參内謁見奉別

一 奉 邦 平 年 米 作 収 獲 高

三 千 四 百 二 十 五 万 七 千 四 百 石

農 務 省 測 高
附 事 新

明治二十三年五月五日ノ勅書元田柁
密顧問官勅使トシテ其翌十日横濱
旅寓ニ来リ傳達ス
朕惟フニ維新以來明治政府ノ基礎ヲ
立シハ木戸大久保卿トナリ爾士ハ既ニ維キ
又御博文一人樞機ニ在ルナク有餘年格
据題勉其勲功少カラス然ルニ去年不

止事情ニヨリ一時其職ヲ辭スト雖臣萬一
有事ノ日ニ必ス出テ濟フテアラニテシテ
ヘリ方今條約改正兩議院創設之儀等
實ニ國家多難ノ秋ニ降セリ若シ一善ヲ誤
シハ將ニ危急ニ至ラントス朕仰テ僕ツト久
シ仰宜シク深考熟慮シ速ニ廟堂ニ出
テ朕カ不遠ヲ冀賛セヨ

右御前ニ於テ

奉勅

總侍從長書面ニテ

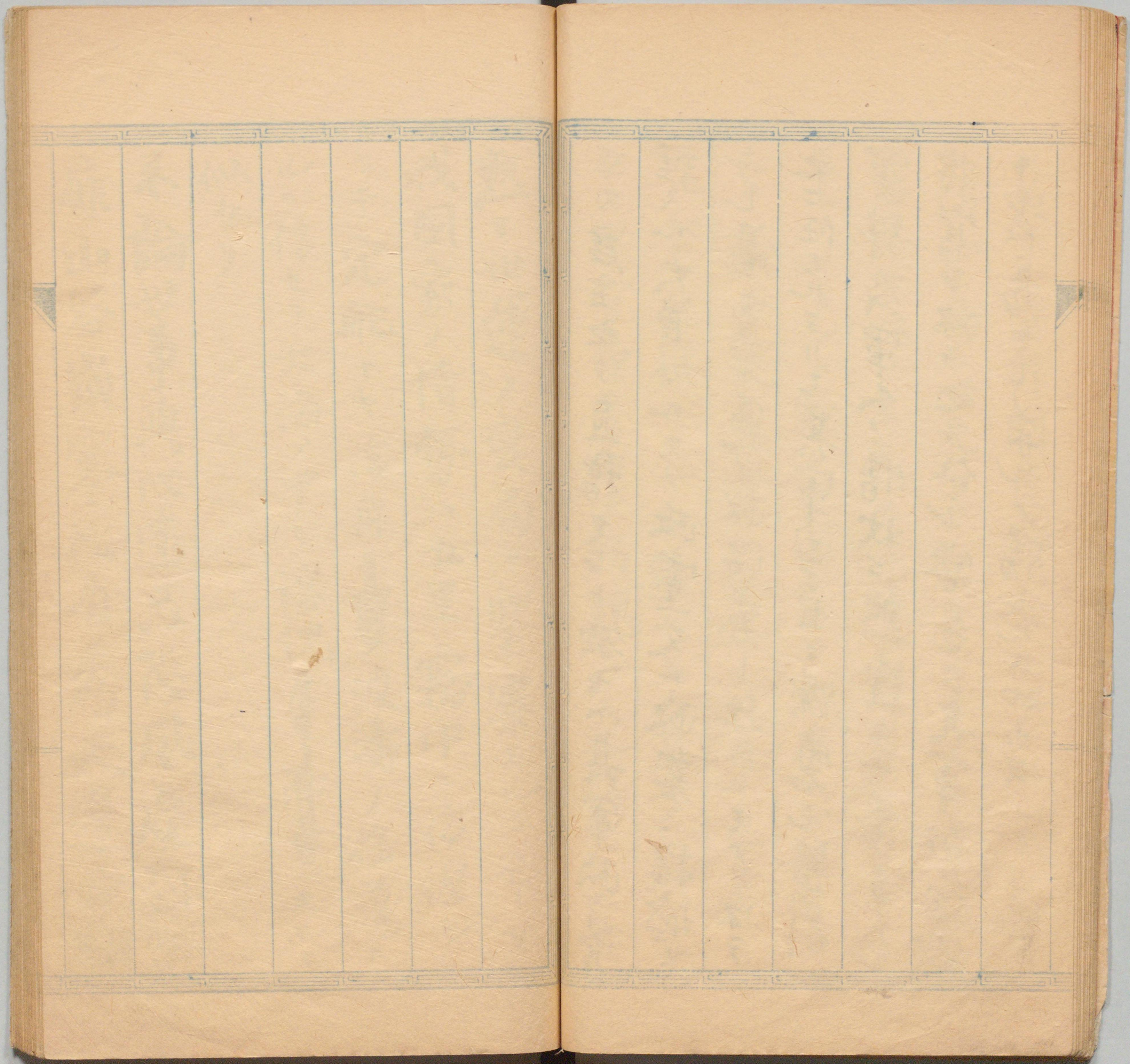
ナリ

明治三十四年九月十五日ノ下向ニ對シ奉

答

陸海軍大臣ニ任セラル者必ス其將官ト
ラサルヘカラストノ規程ハ恐ラク歐洲諸國

ニ於テモ法律制度的ノ者ミアラスシテ事實
上防禦的ノ必要ヨリ起リシモノナラシ具故ニ
憲君主體ノ主義ヲ保持シ苟モ大權ヲ下移
セシメサケント欲セハ國家ノ公力タル兵權ヲ
シテ議會又ハ政黨ノ玩弄スル所ト委セサルモ
アルベシ兵權ヲシテ下移セシメサケント欲セハ
之ヲ皇室即チ君主躬親ヲ直轄セサルハカ
ラス君主之ヲ直轄セシト欲セハ其軍政ヲ管
理スル大臣タルモノ政黨又ハ政黨ニ拮据セ
ラシ易キ普通ノ政治家ト稱スルモノヲ以テ
之ニ任スルヨリモ其軍事上ニ鍊磨シ軍制
軍律及軍人ノ情狀ニ熟達セル美良素アル
將官ヲ以テ之ニ任シ容易ニ其軍制ノ組織
ヲ変易セシメサルノ勝レルヒ如カス



国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

熟々世運ノ変化ヲ鑑察スルニ今ヤ
我國家ノ情勢ハ五里霧中ニ彷徨シ
シテ定航ナキ浮舟也波濤ノ揺蕩ス
ルニ信セテ大海ノ中ニ浮沈アリ而シテ
似タリ
不論世事興心遠只恐風塵到紫
扉山谷歲寒松自秀天邊雷翻

草猶那閑者雲影依危岫更
聽潮聲觸斷磯白首空餘
詩骨侵吟情躍々冲霄飛

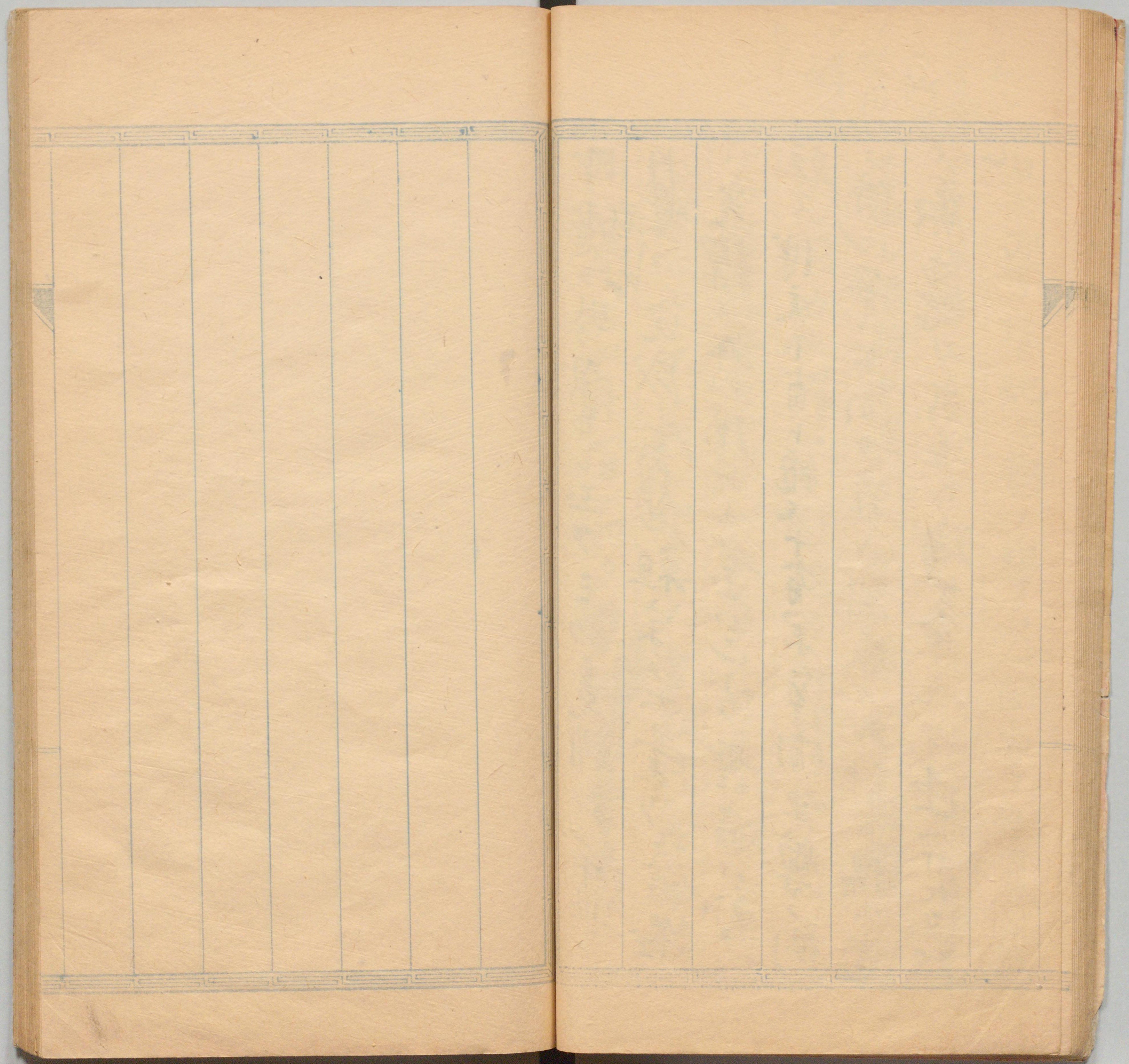
博文疎キヲ以テ叨リニ聖主ノ恩遇ヲ蒙リ先輩ノ
遺囑ヲ繼キ中興ノ大業ヲ翼賛セント欲シ
顯要ノ地位ヲ肩濟スルヲ十有餘年迄頃
特恩ニ依リ身閑職ニ就ク在リト雖亦嘗テ日
モ國社稷ノ事危シ憂慮セシムルハカラス然レ
而シテ既往重年凡國勢ヲ觀察スルニ上下ノ意細

今若し
其の
所以
ノ原因
ヲ
シ
キ
ト

日ヲ以テ北地ニ執ノ趨ク所^ニ國家ノ安寧ノ夜
ヲ保持スルニ於テ顧念セサルコト得^ズル
蓋シ維新中興ノ大業ニ職トシテ國體ヲ固
復シ國力ヲ歸一シ國權ヲ伸張スルニ在リ是
ノ當時茲布セラレタル教多ノ公文ニ徴シ履
分明ナルモノアリ我 皇上ノ宵衣旰食勵精
圖治ニ有ル年一日ノ如ク^ニ鞅鞅^ト聖慮

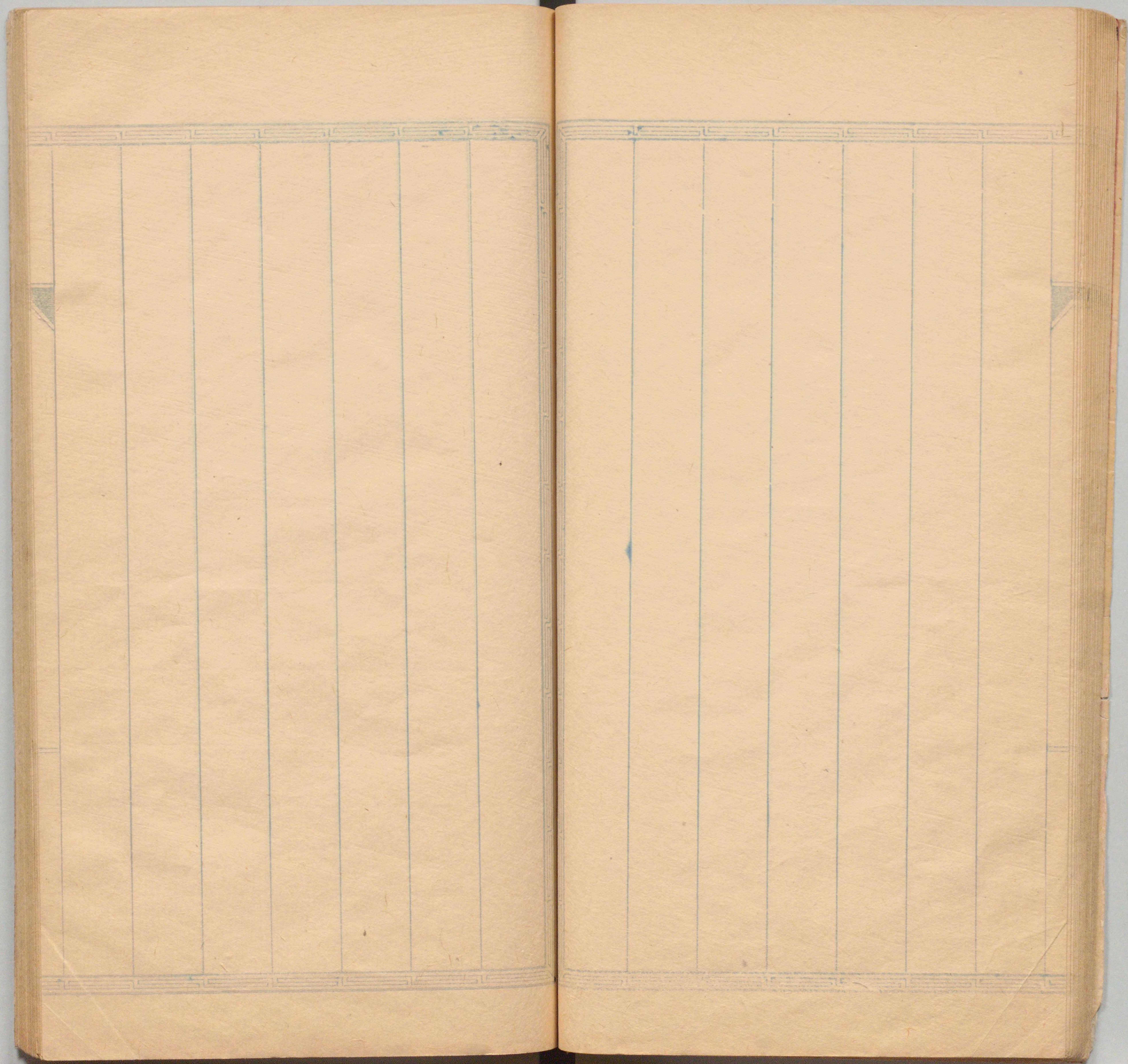
聖慮ヲ勞^シ玉ヲモ必竟維新中興ノ
大業^ヲ完成シ^テ祖宗ノ大業ヲシテ益
ニ光輝ヲ散揚セシメ玉ハントノ聖旨ニ外ナ
ラズ博文不肖ト雖モ十有餘年向至尊ノ側
ニ侍シ毎ニ下向ヲ蒙リ國家ノ大計ヲ議ス^ル
○ 厥^レ聖慮ノ所在ヲ遵奉シテ述ハサレ^ル知
ル



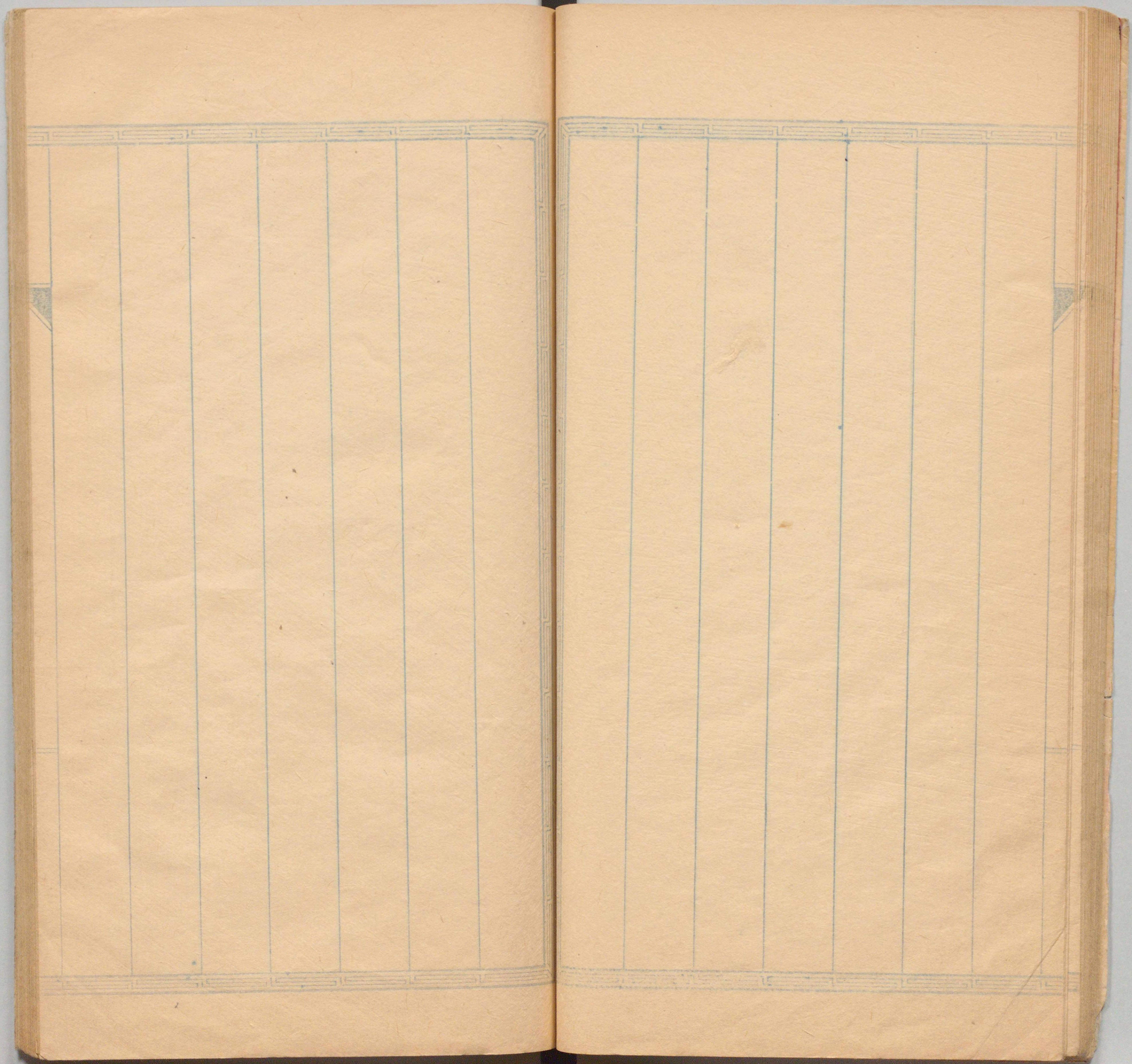


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

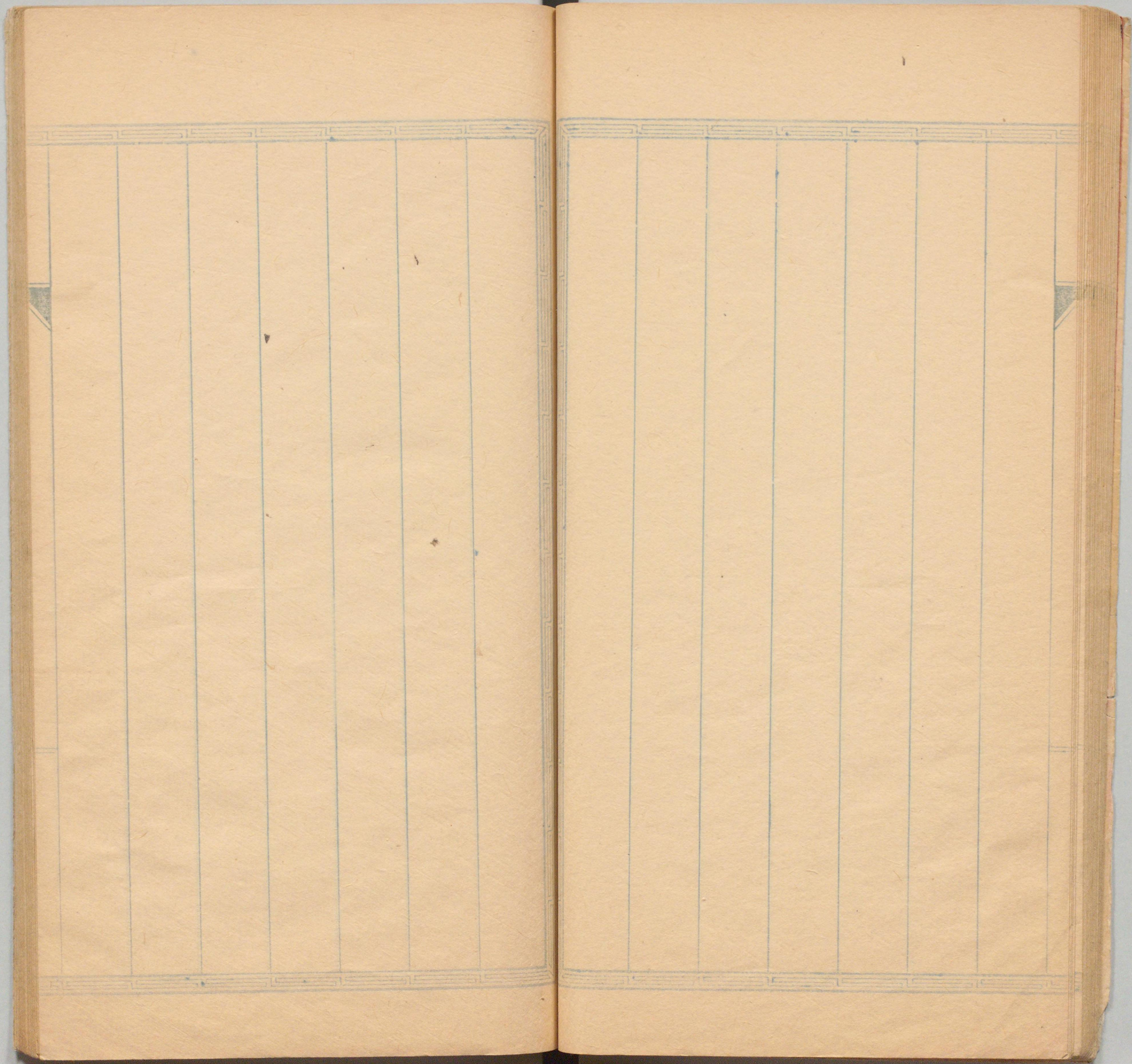




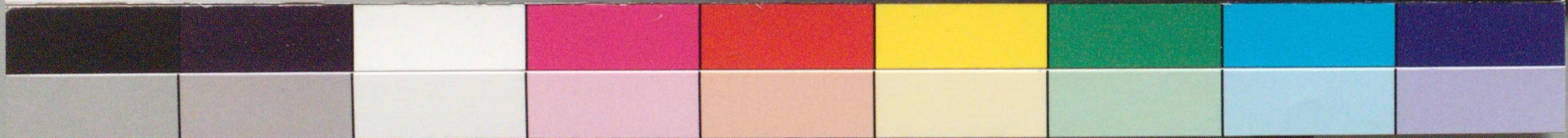
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

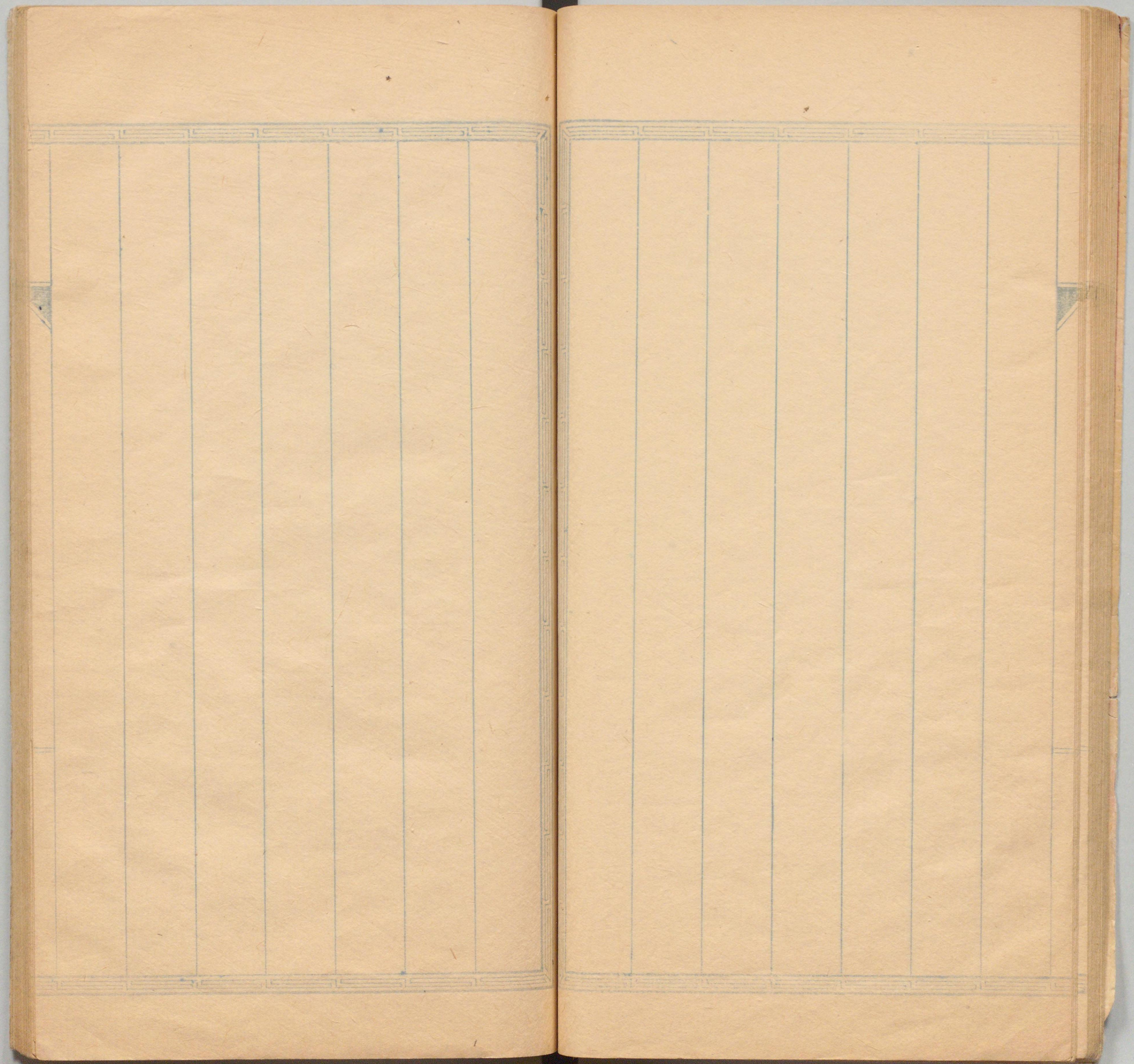


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



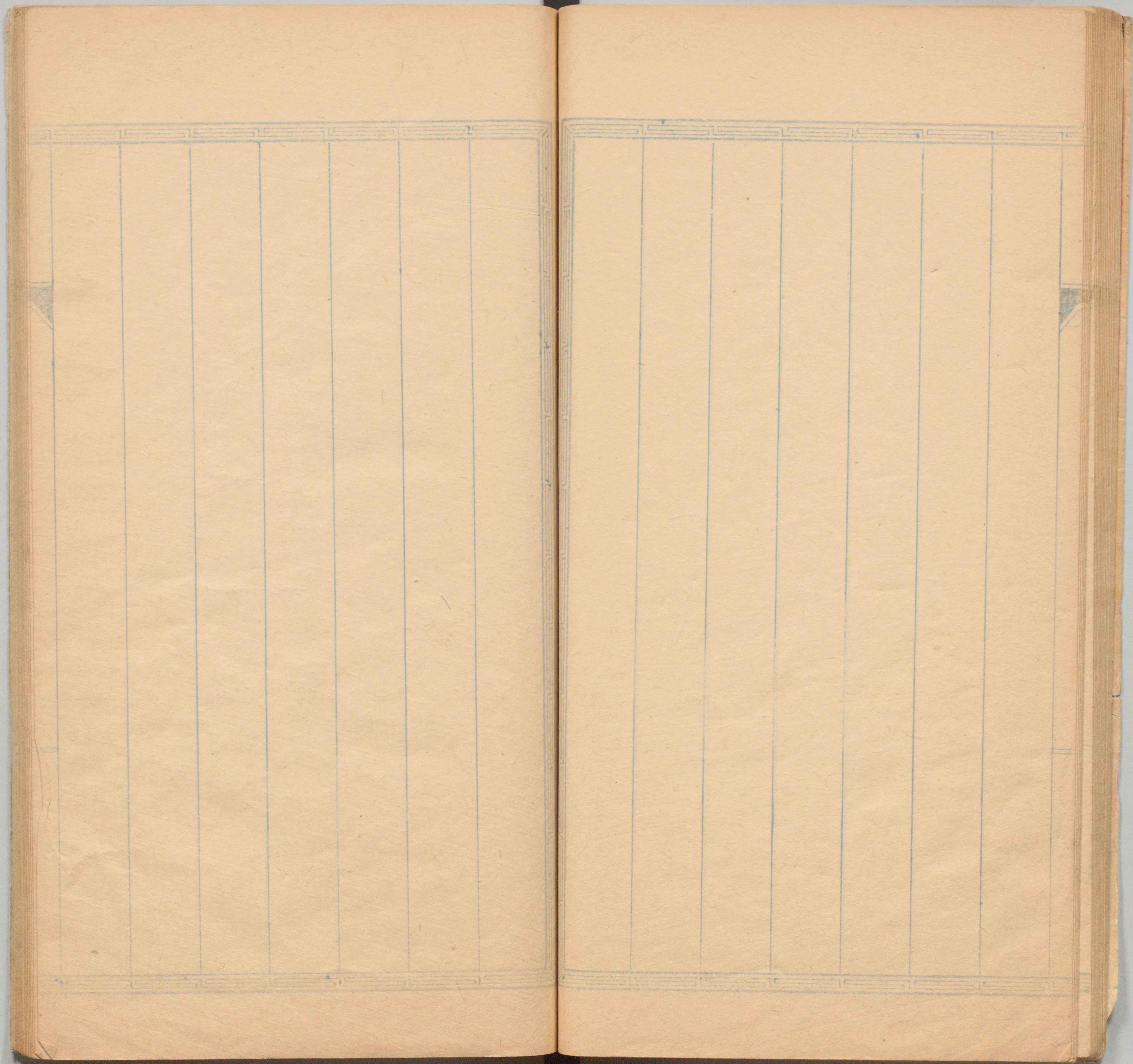
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206





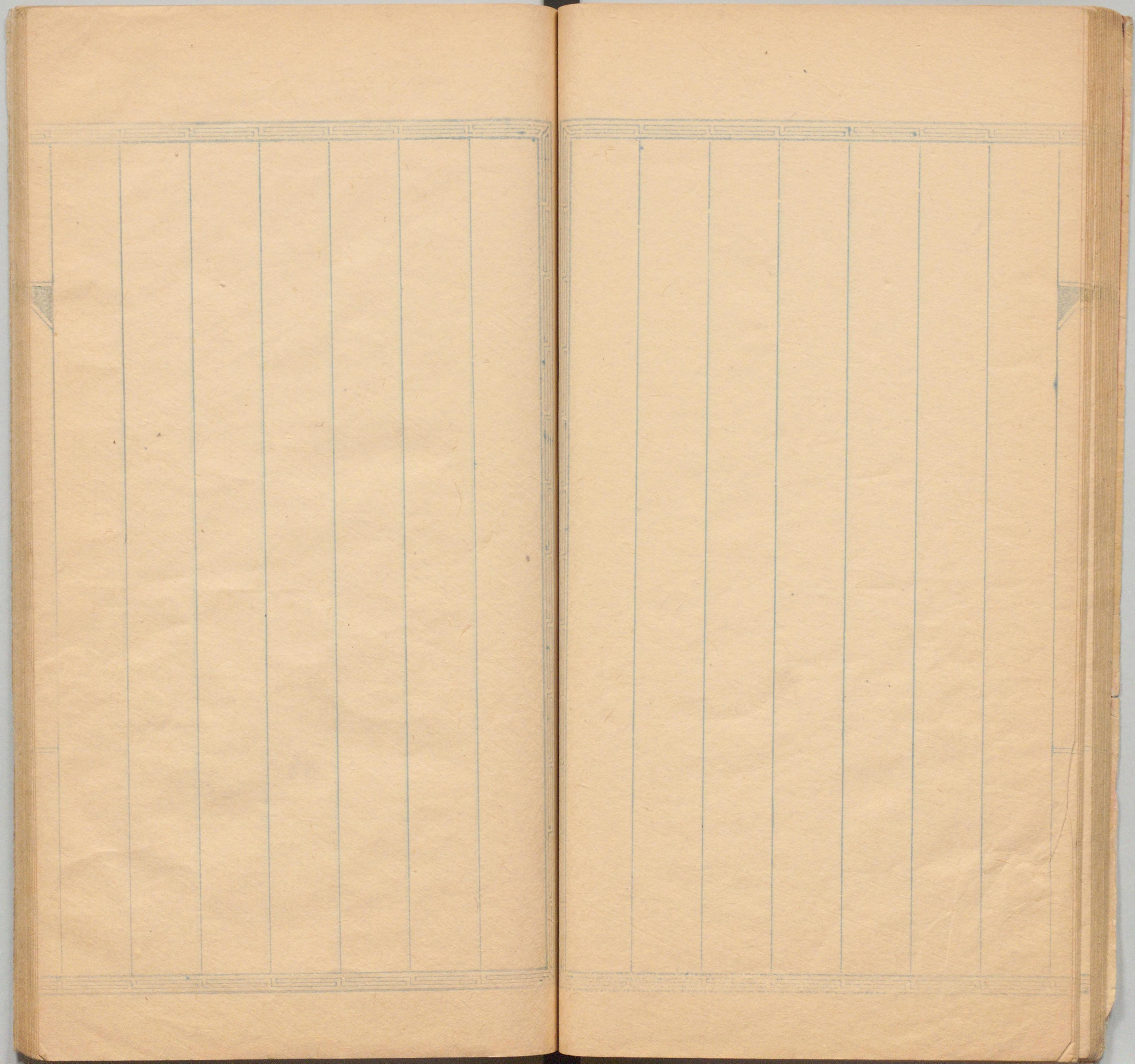
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



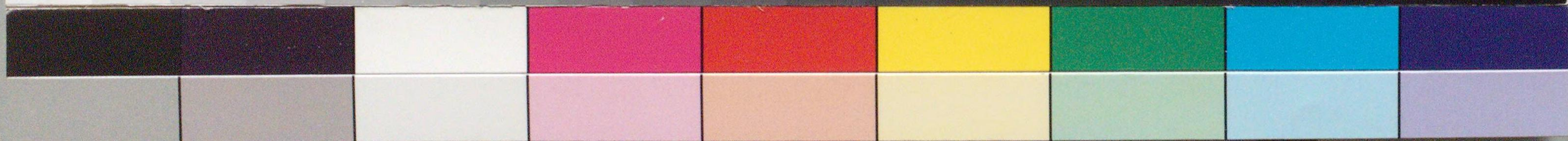


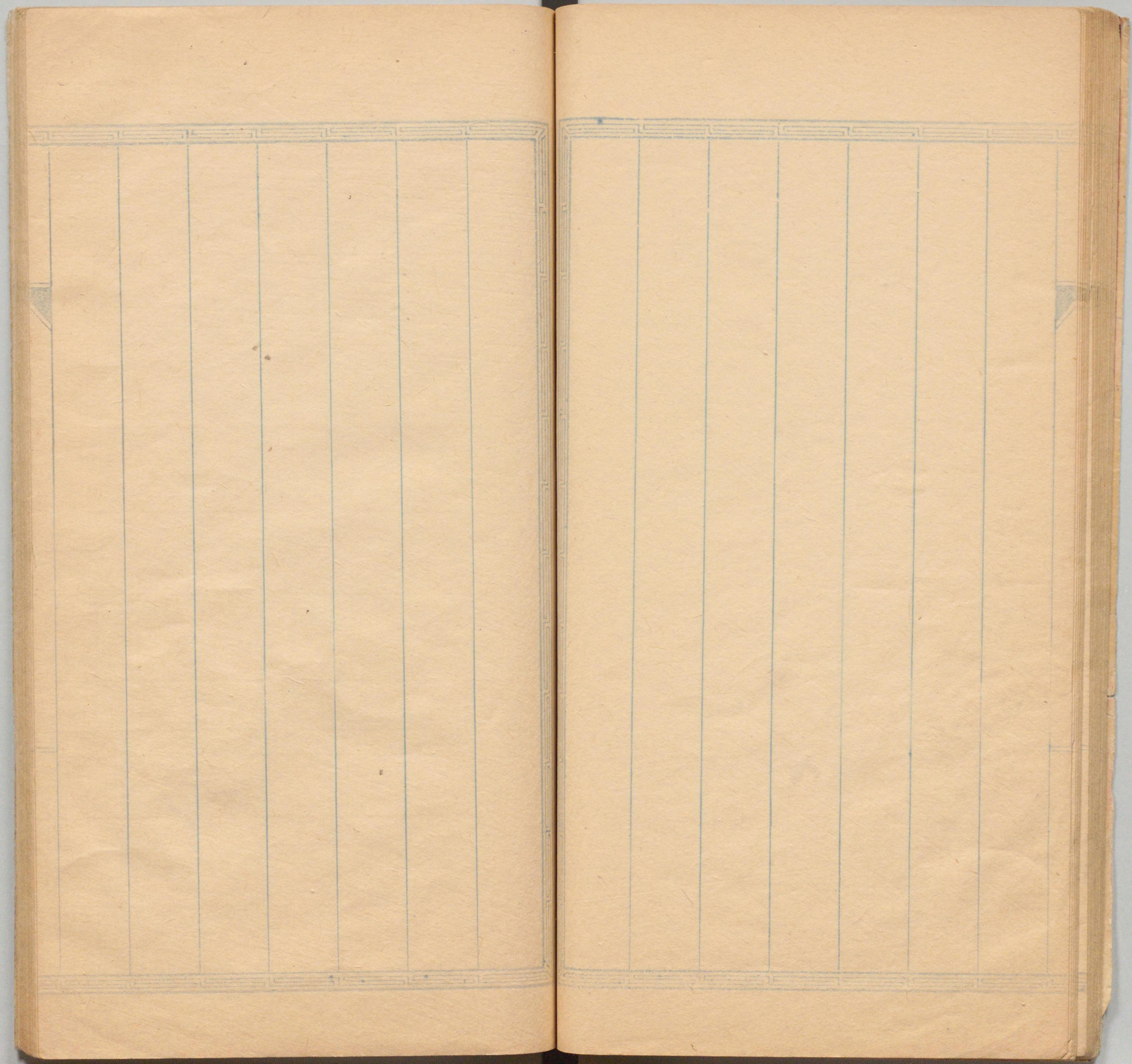
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206





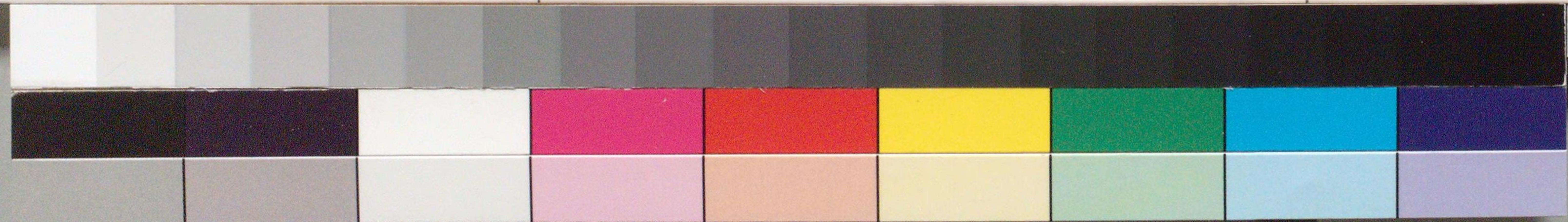
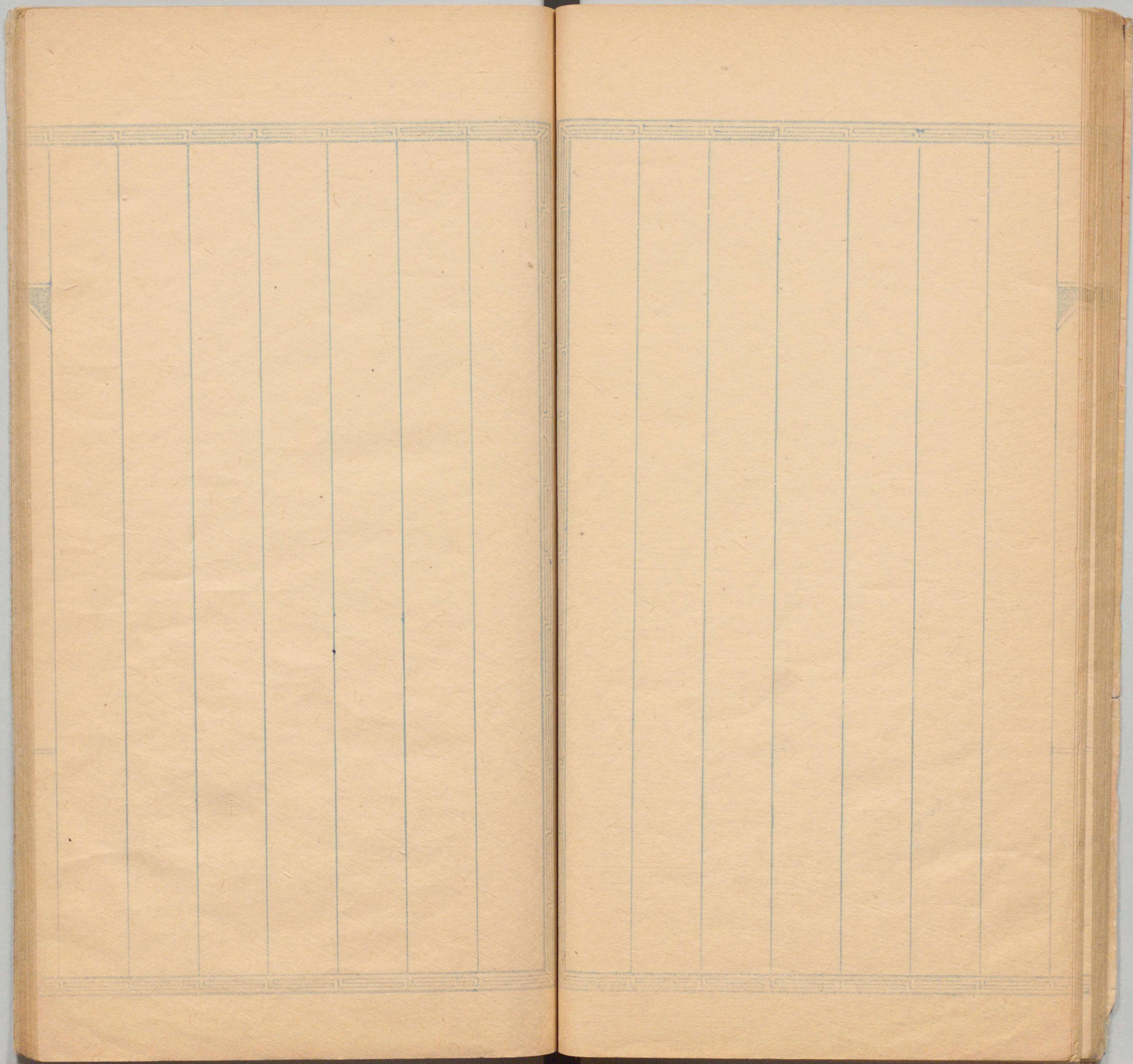
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



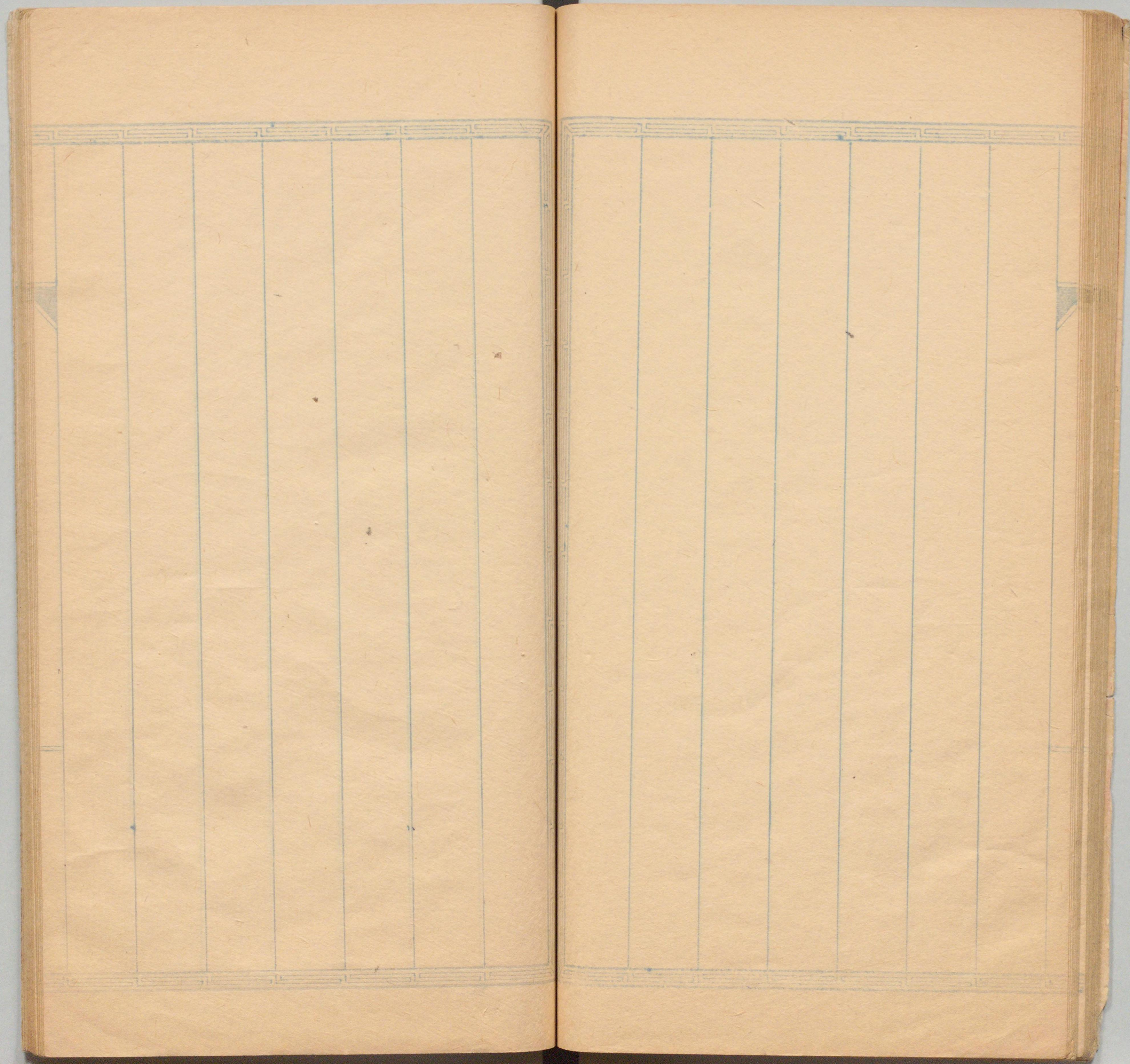


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



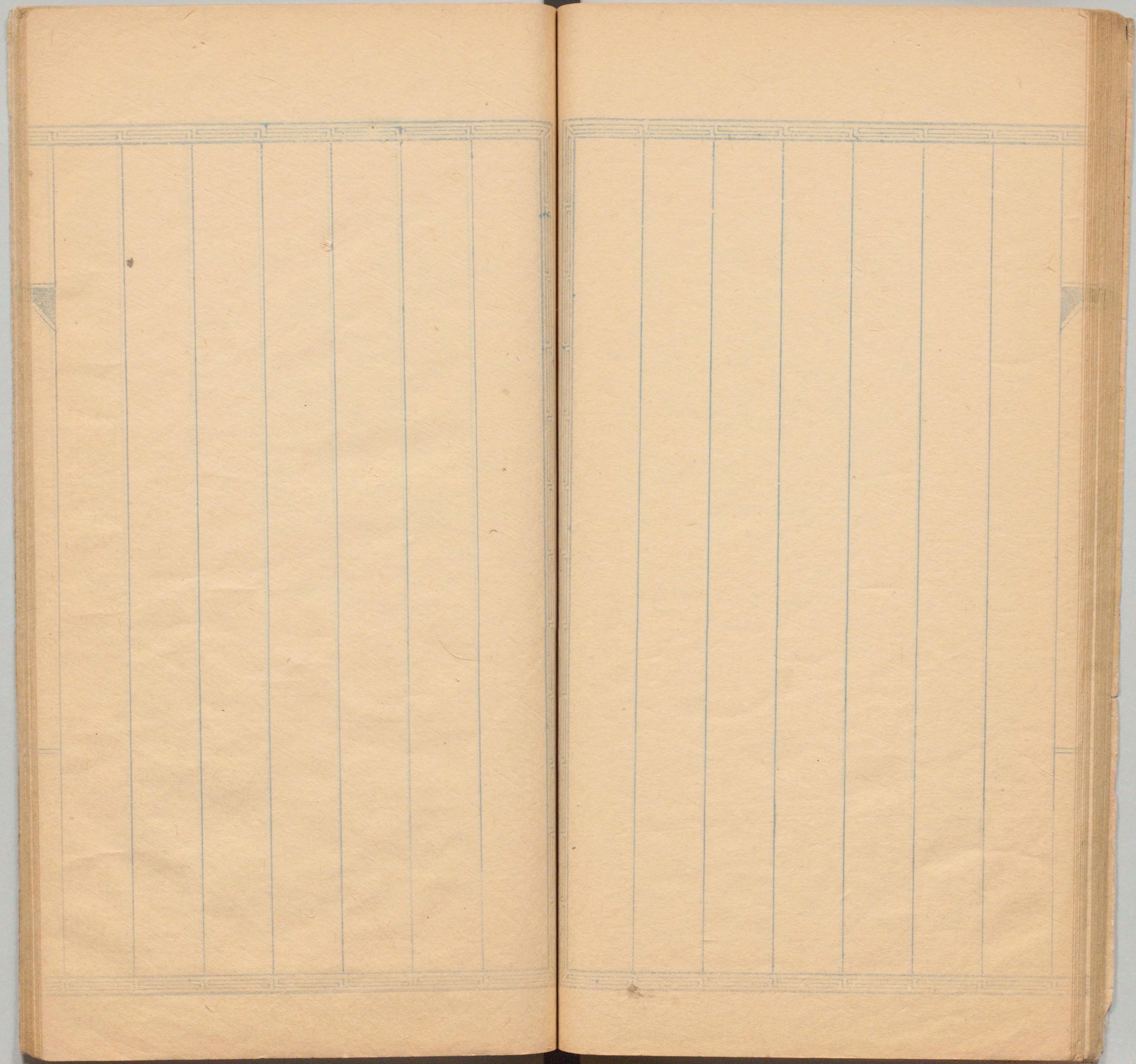


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

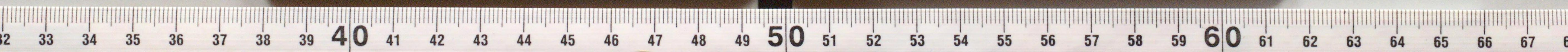
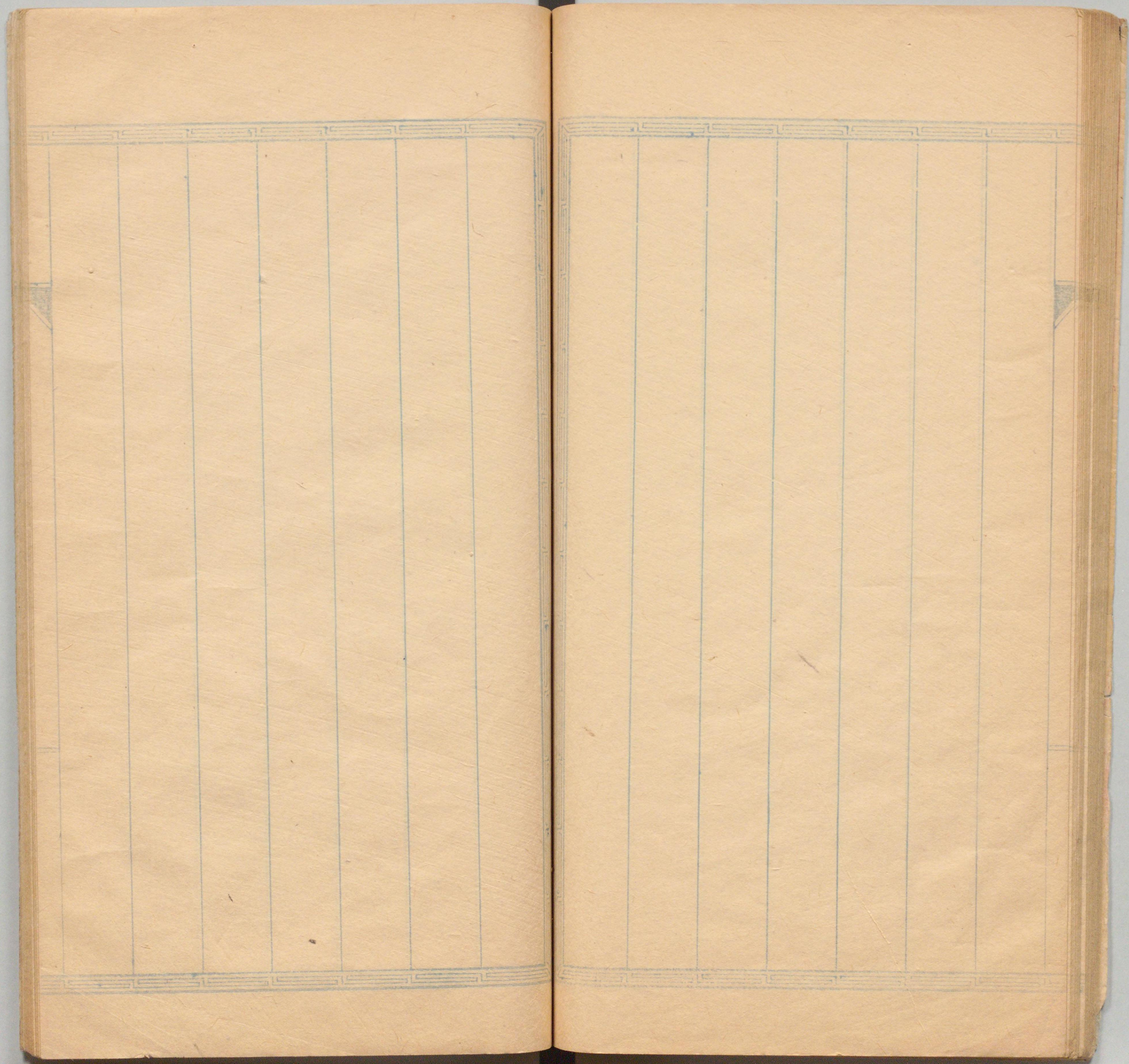


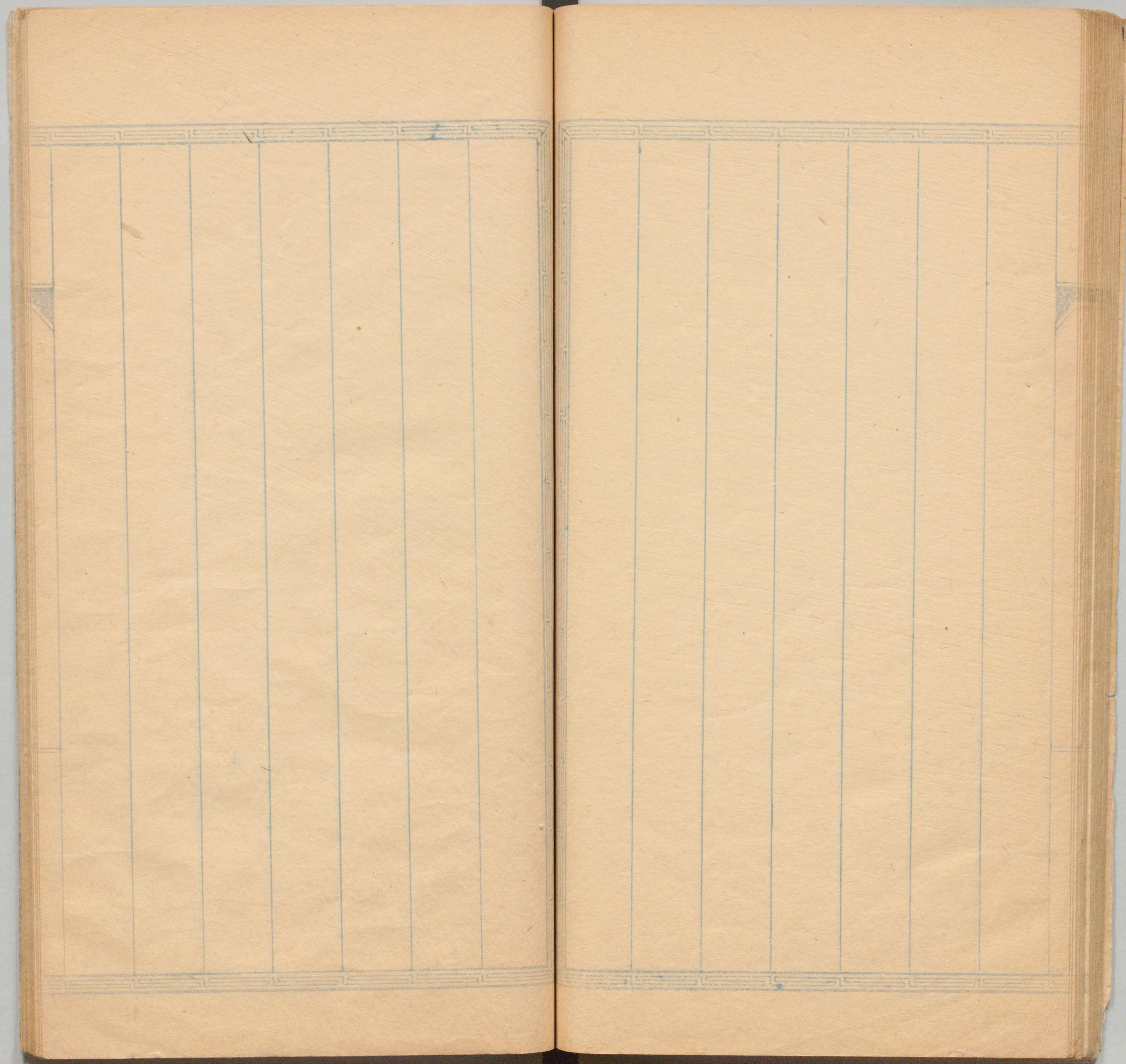
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206





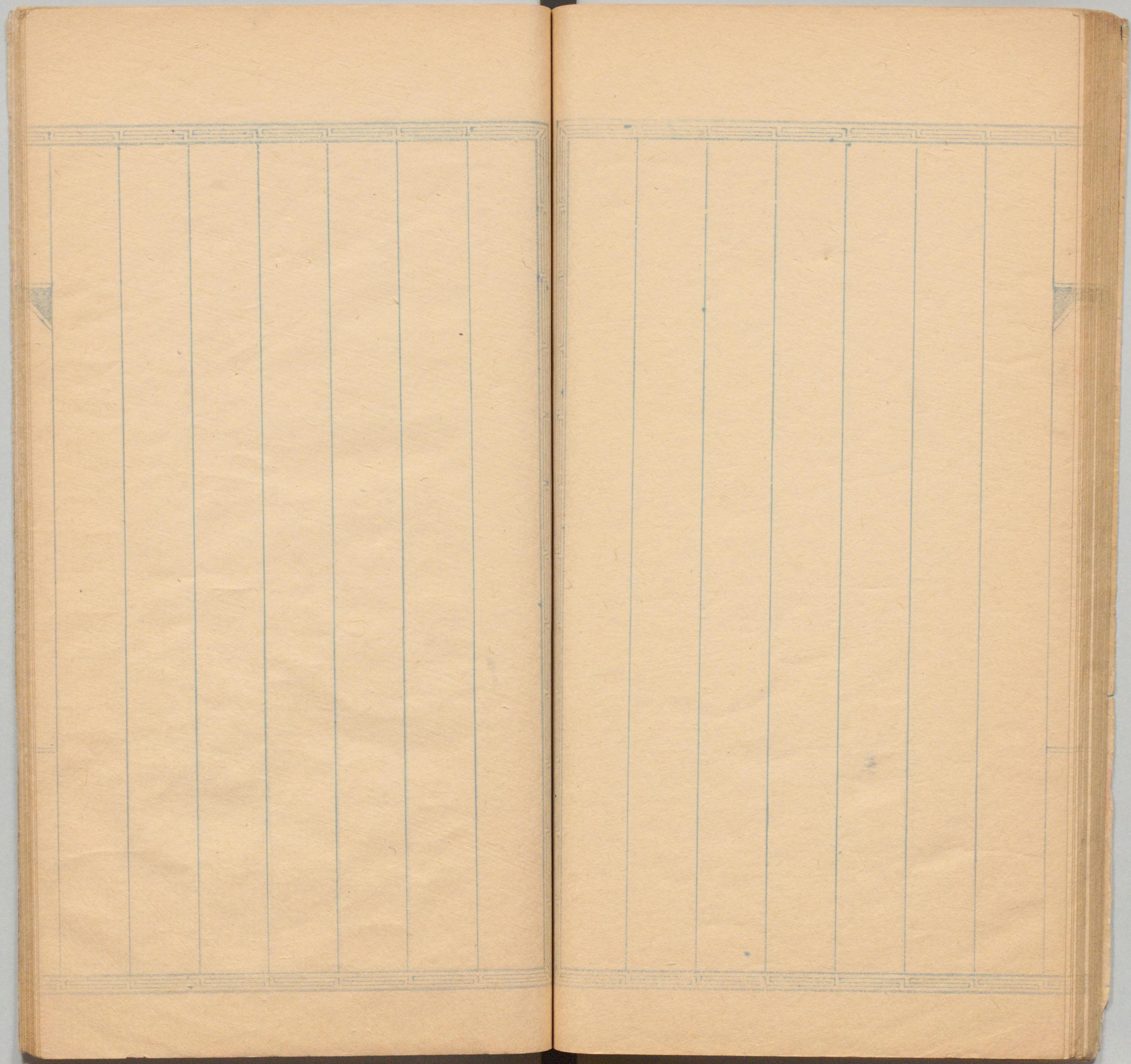
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206





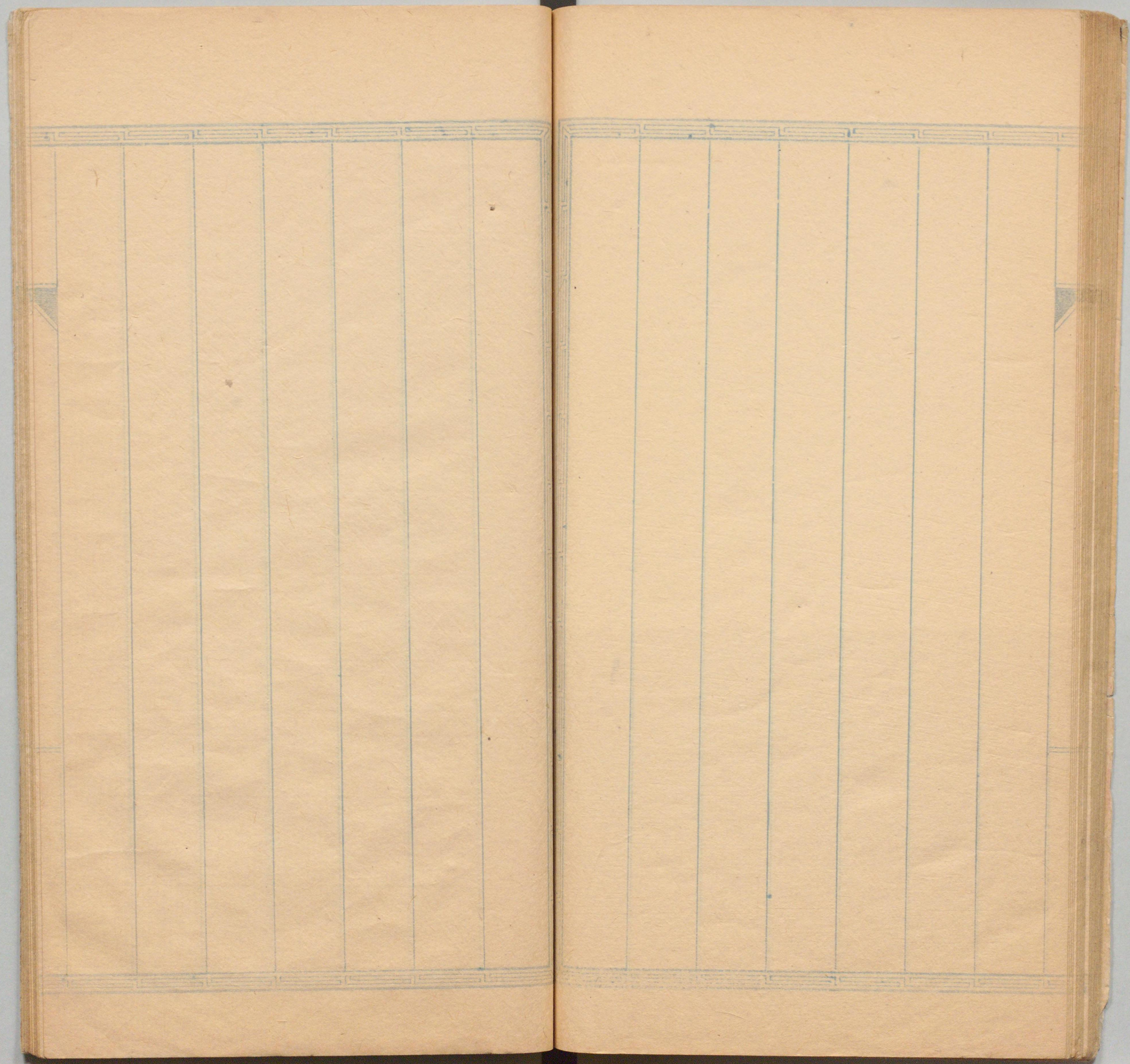
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206





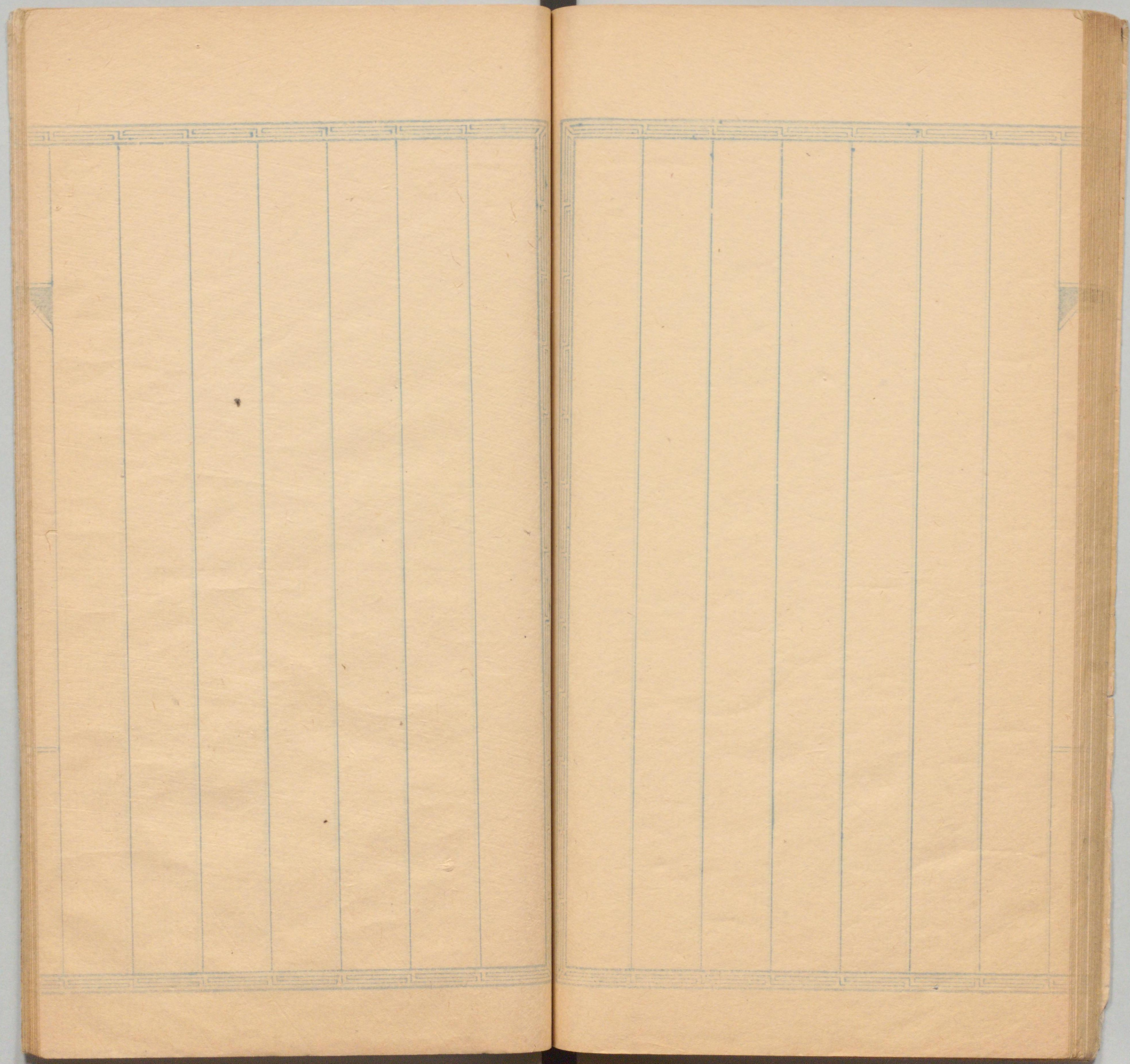
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206





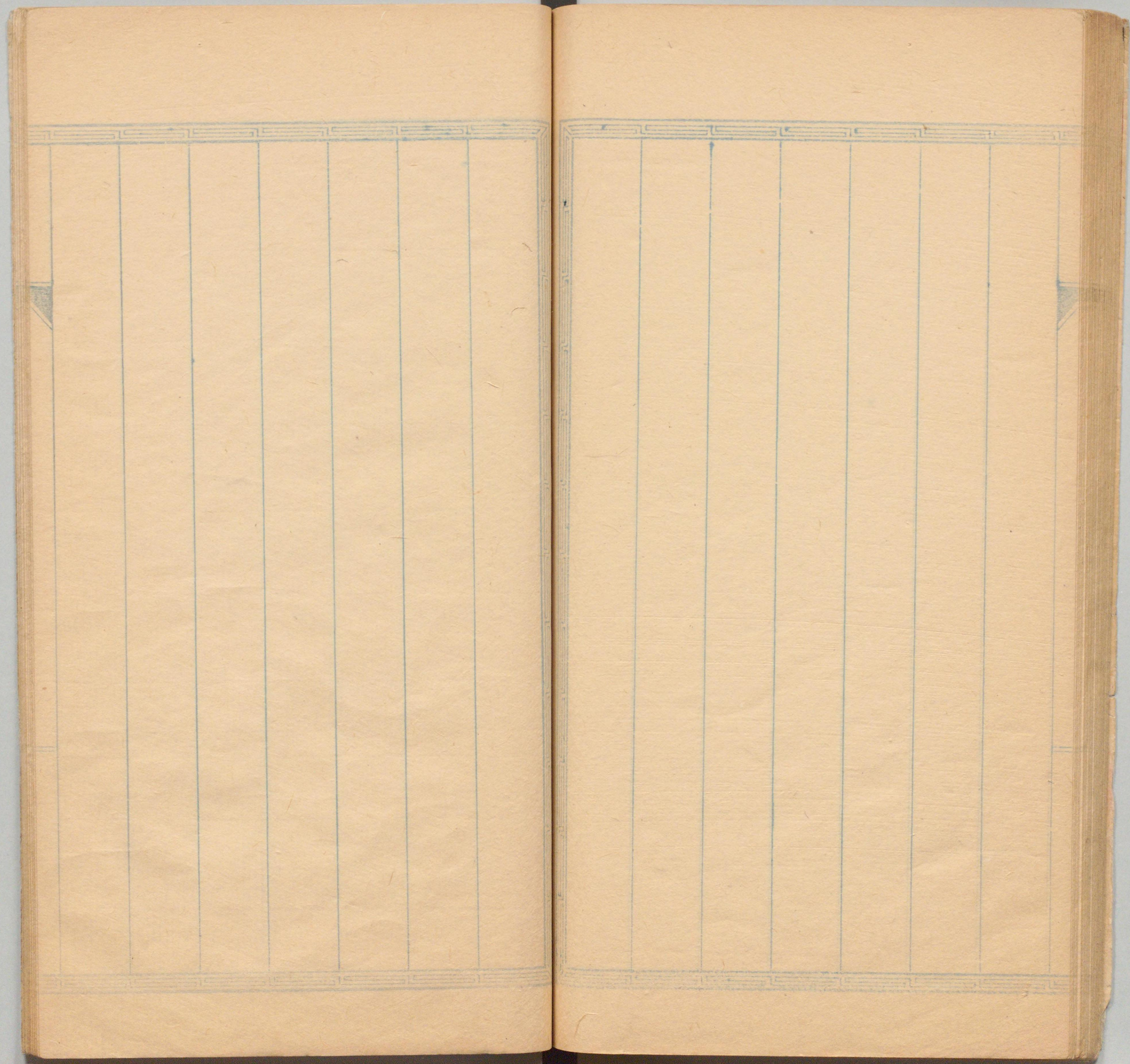
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



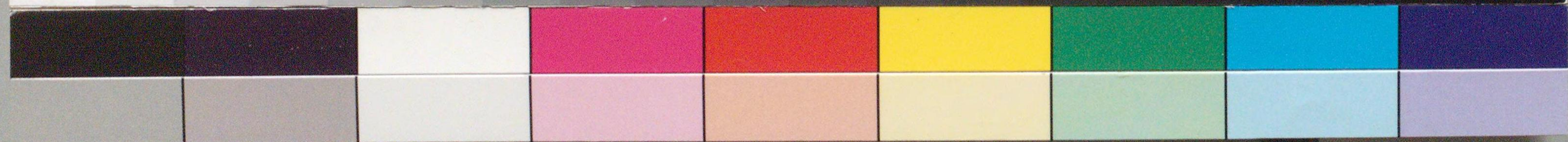


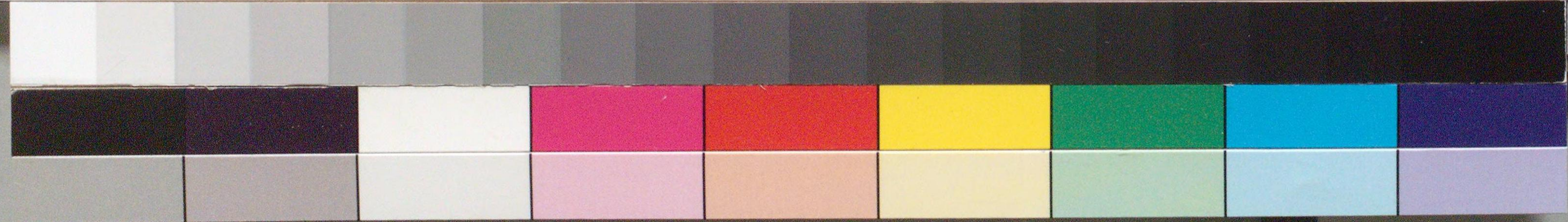
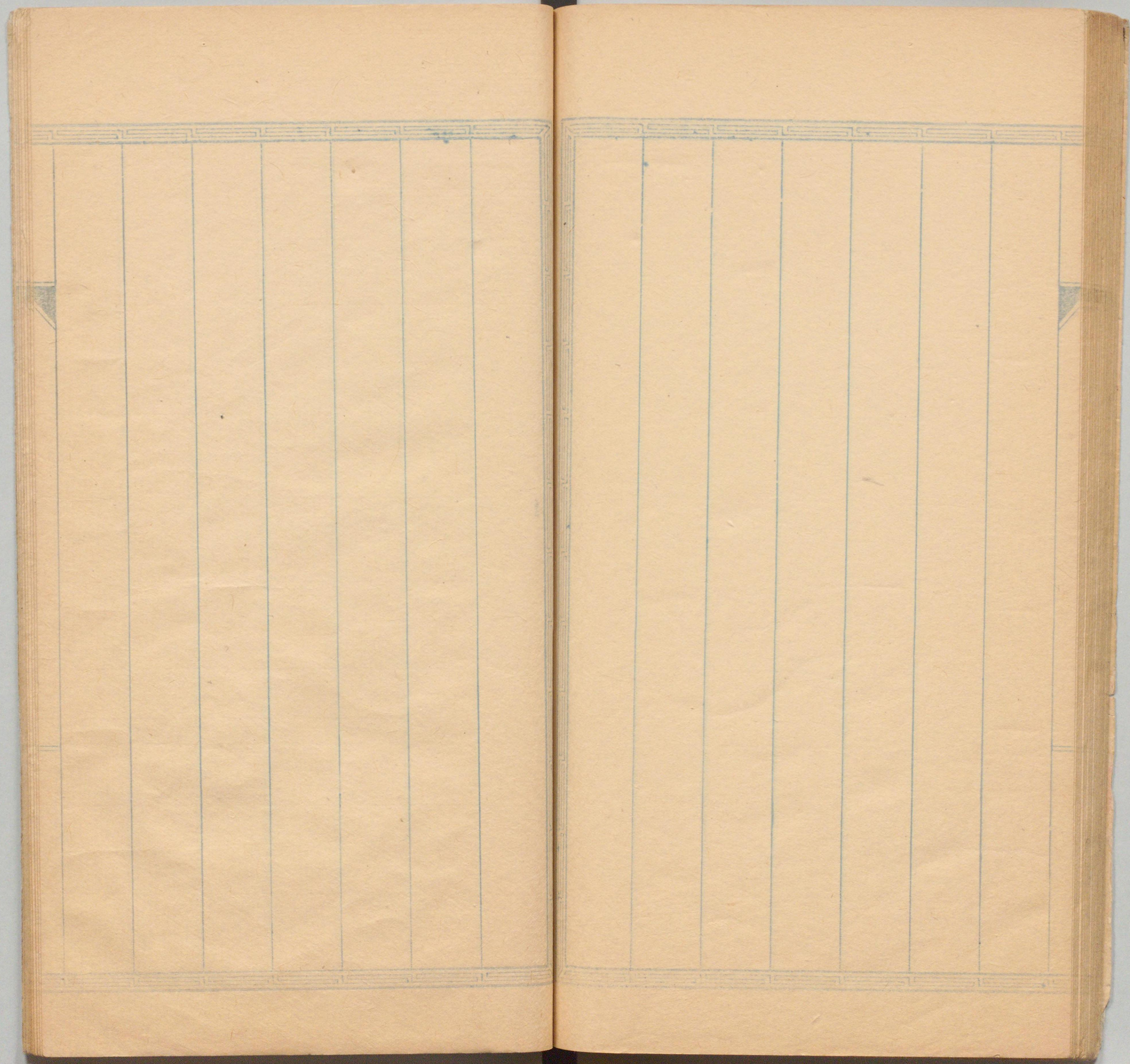
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



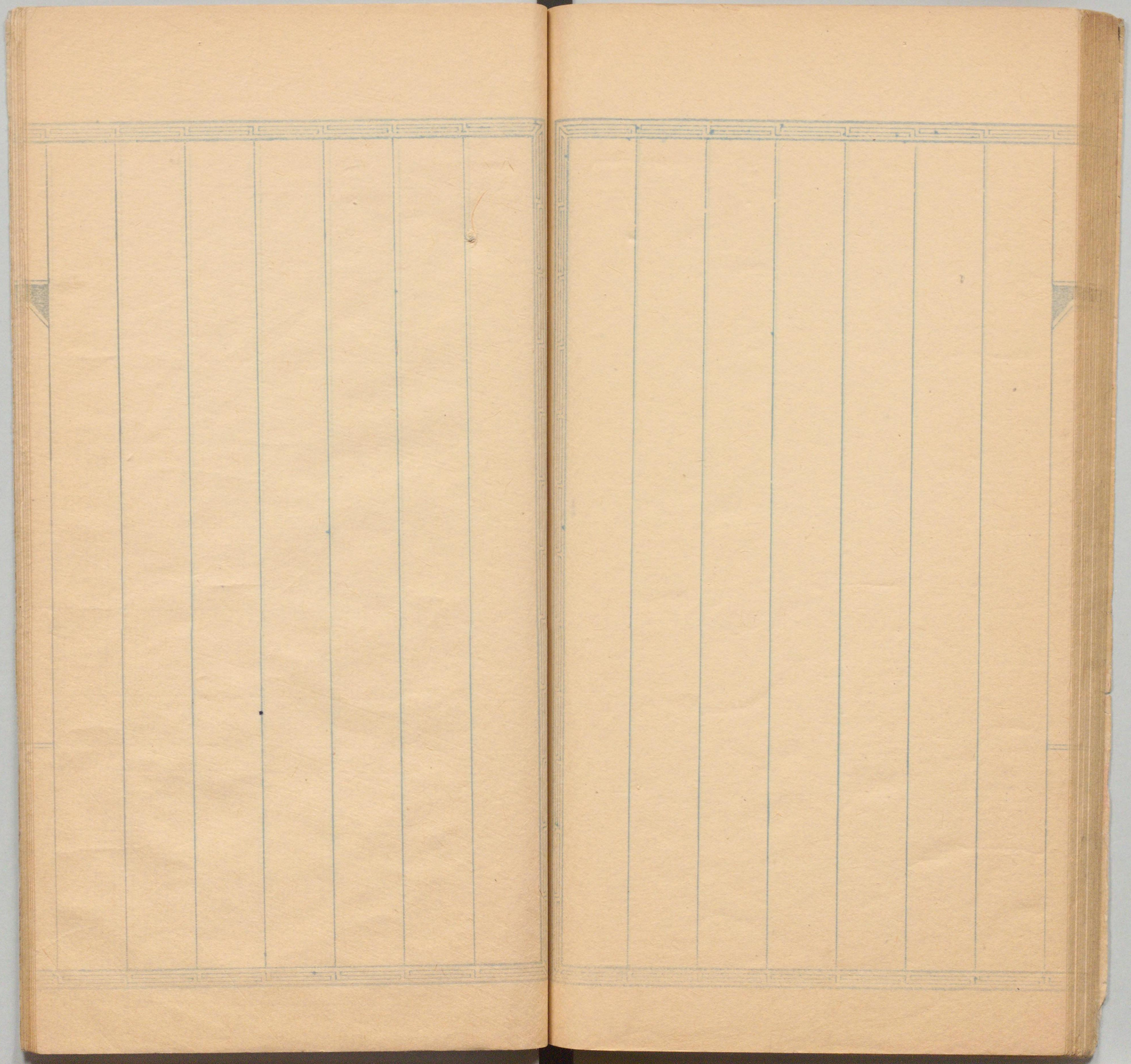


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



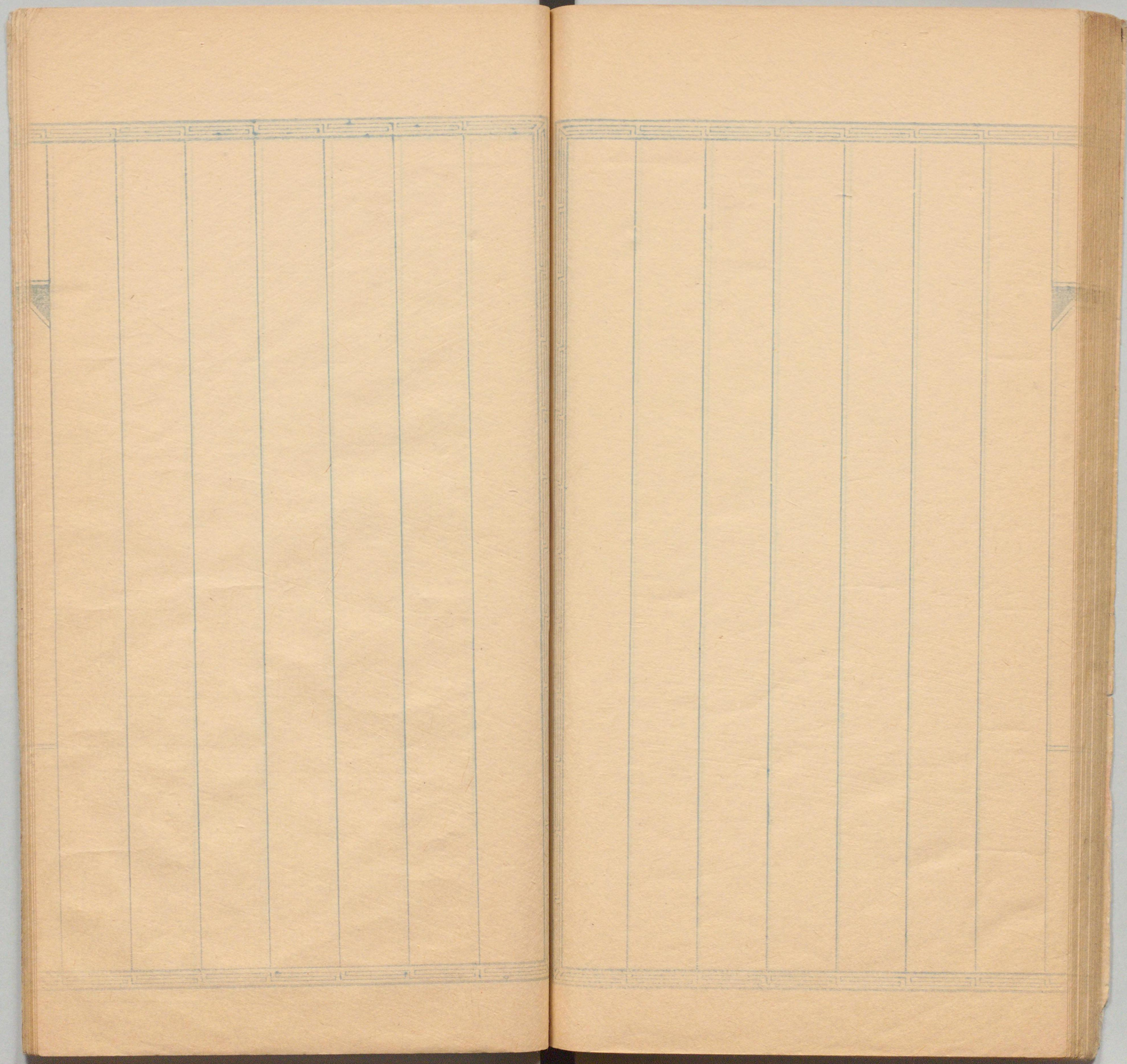


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

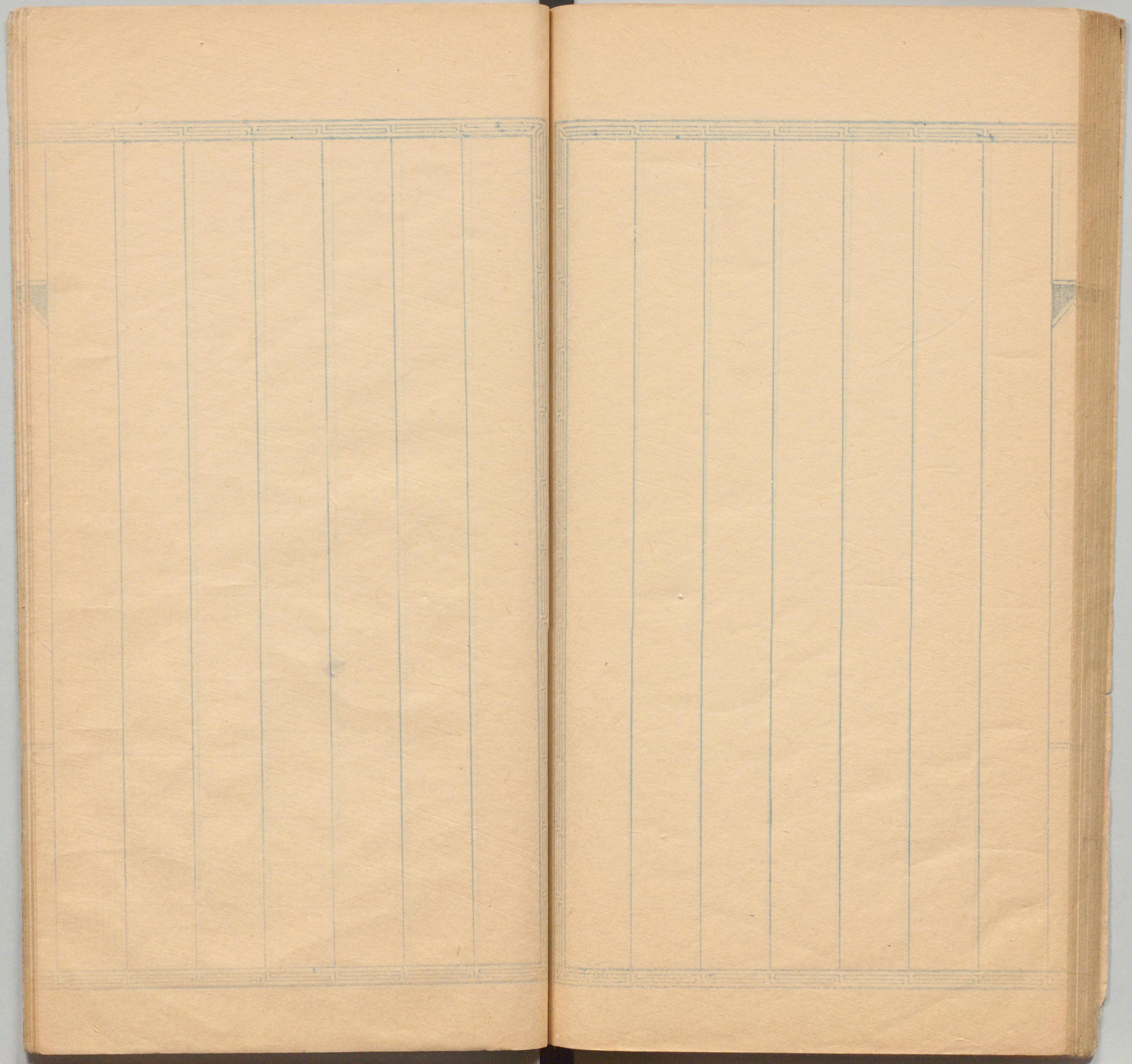


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

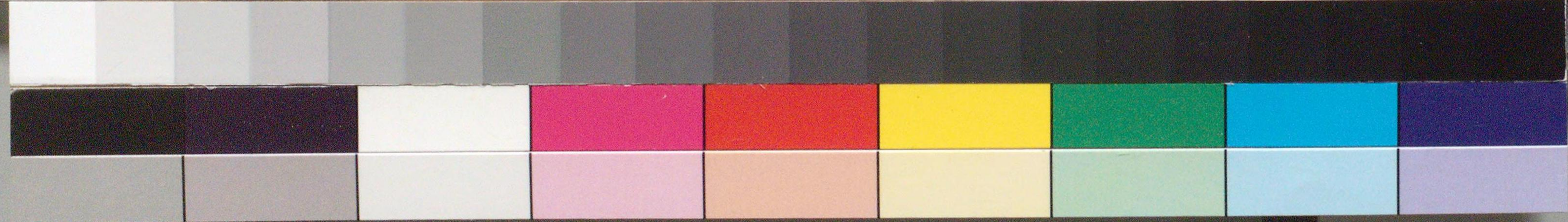


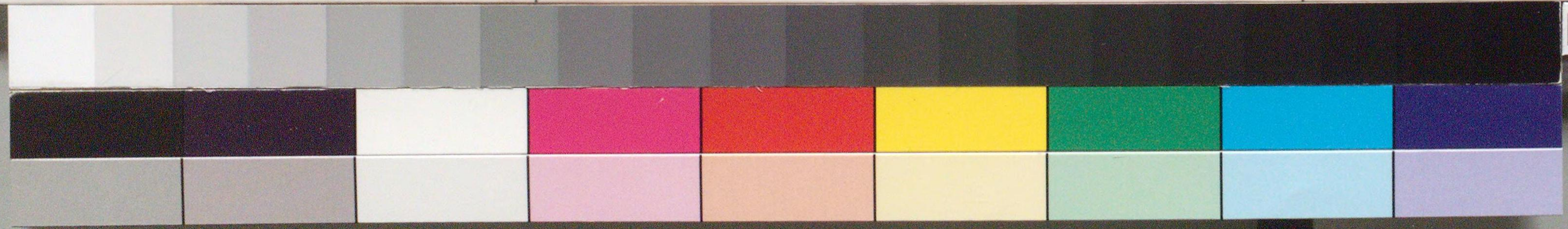
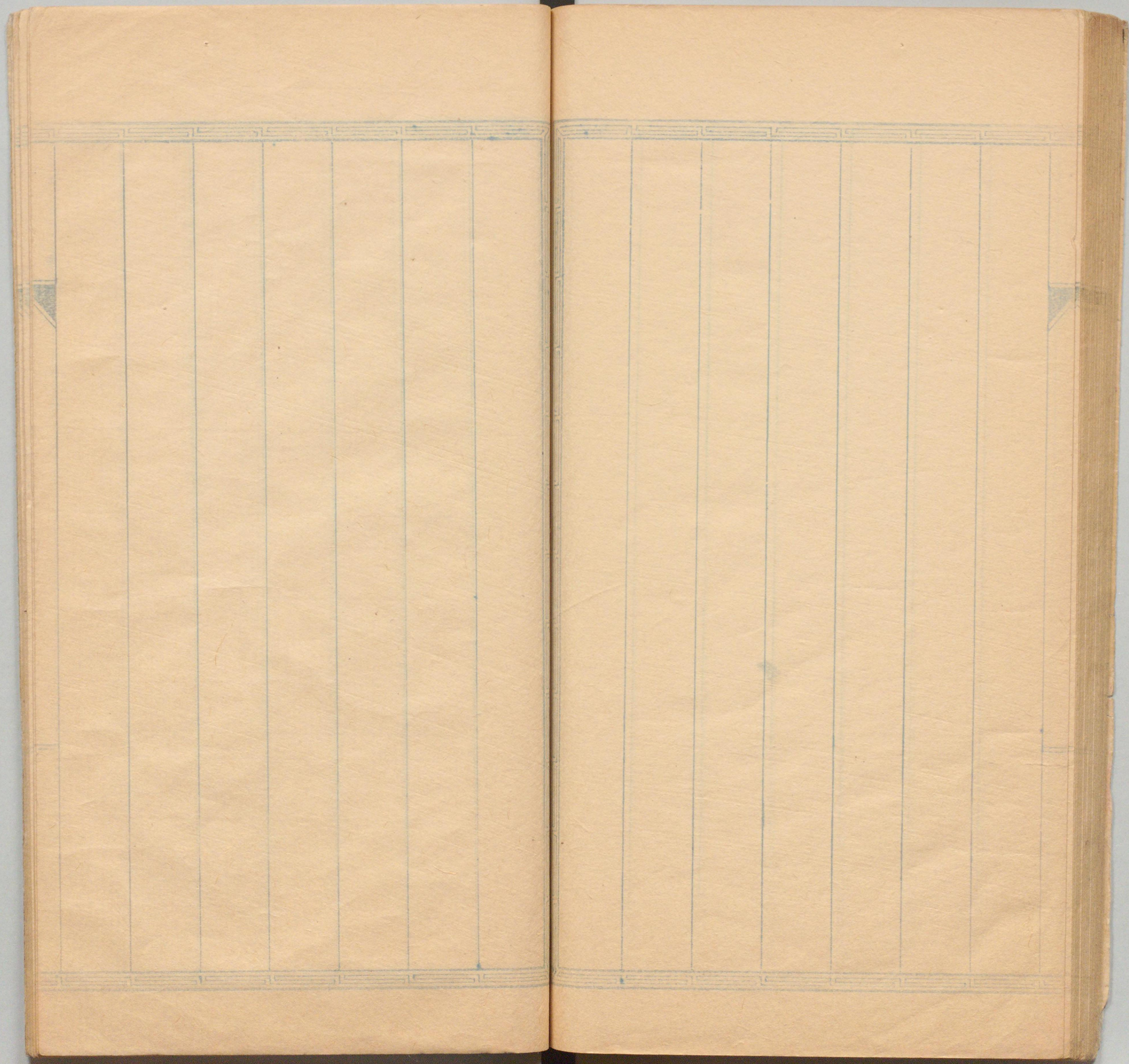


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

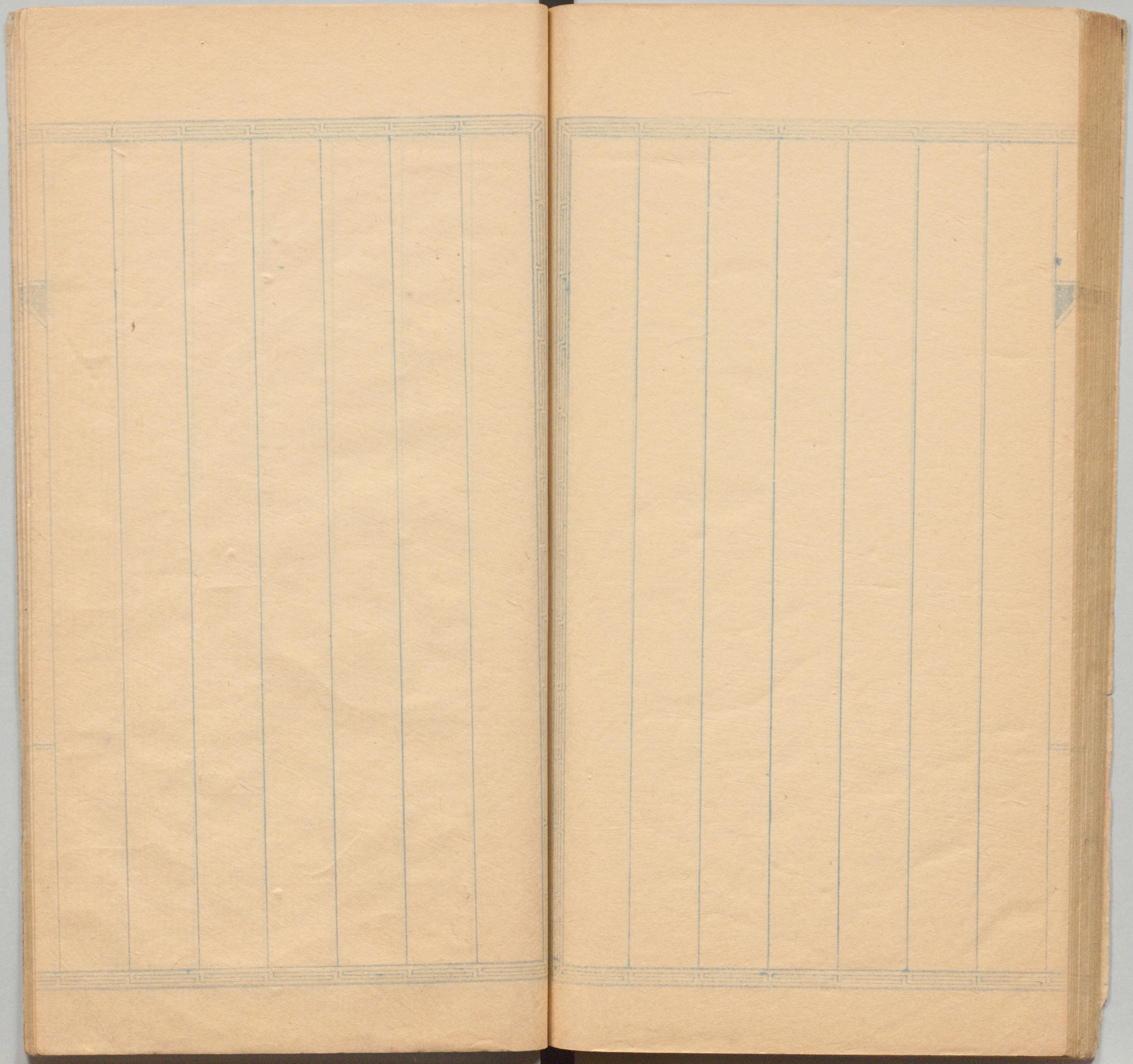


国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206

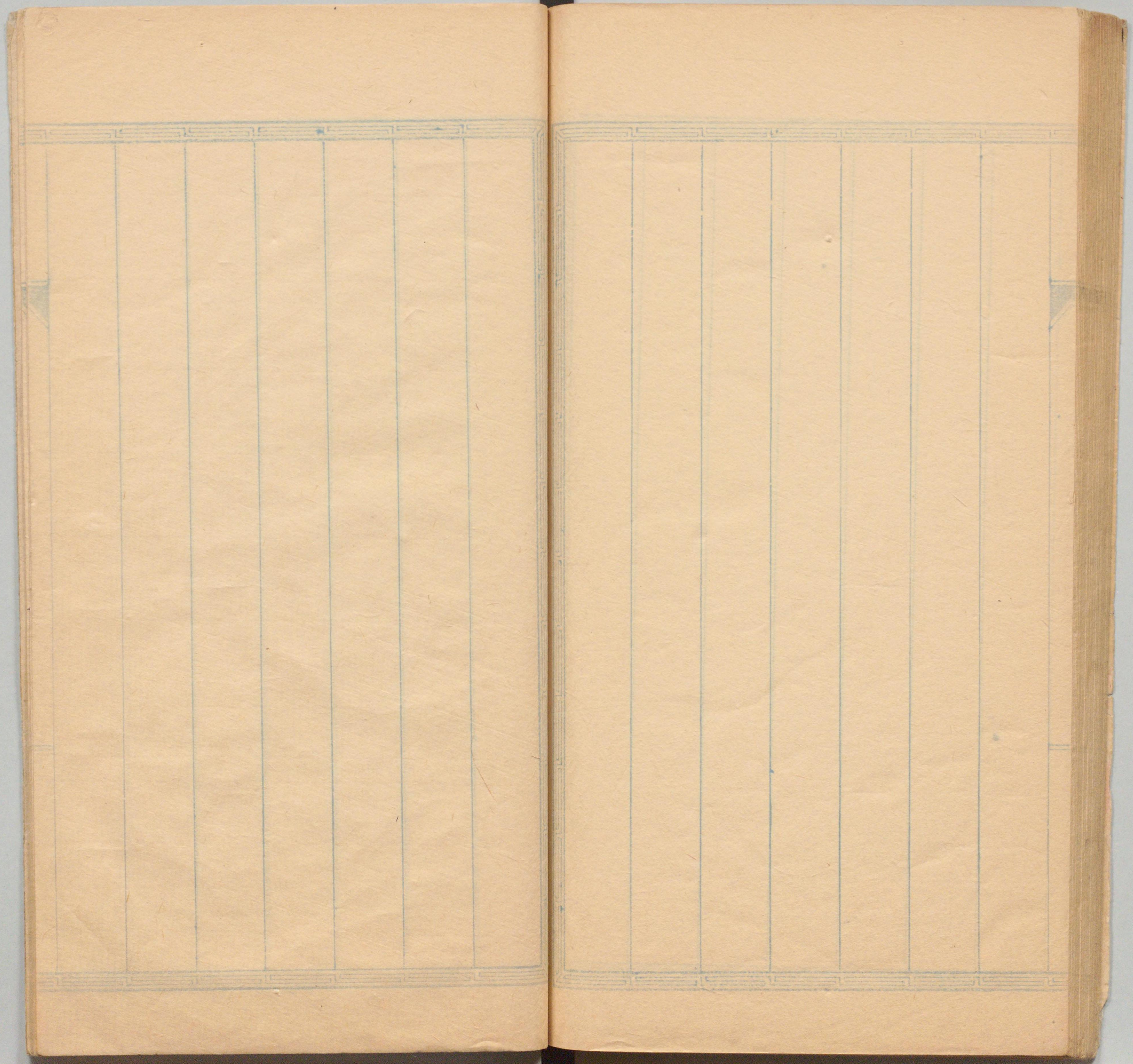




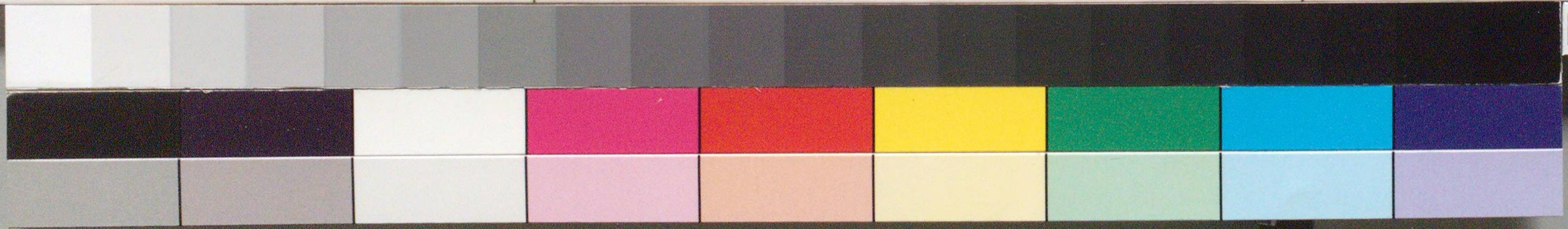
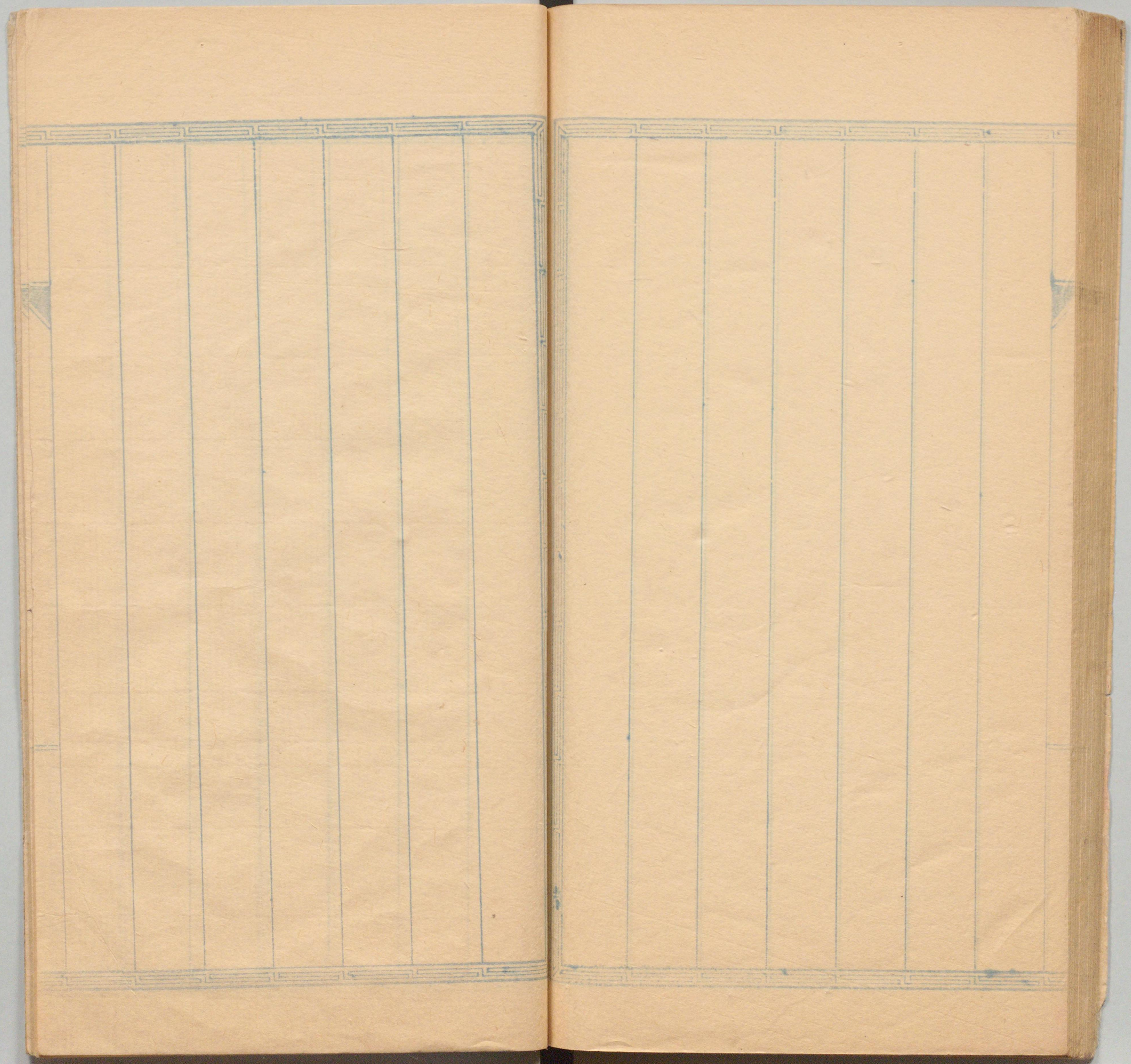
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



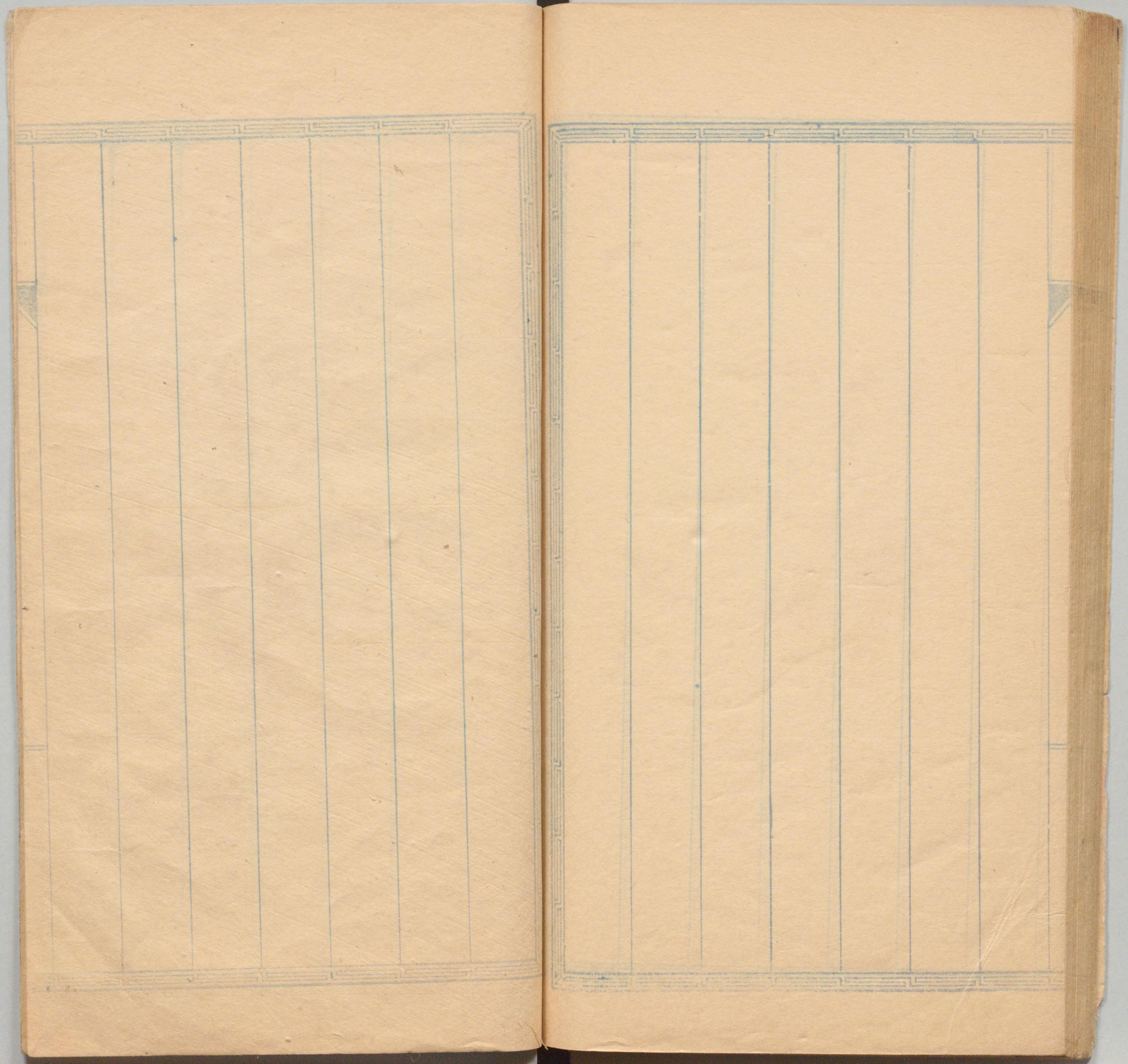
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



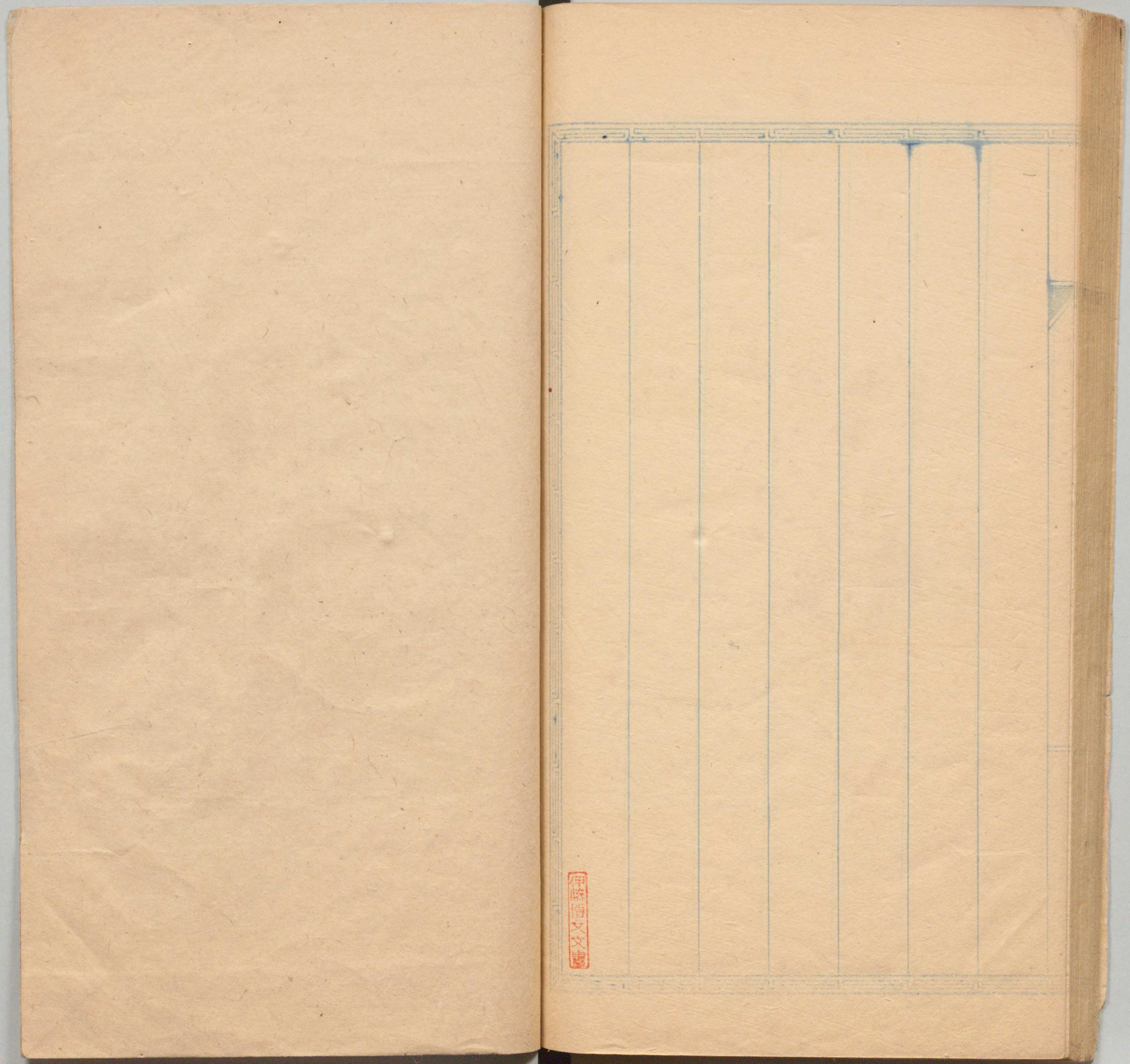
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



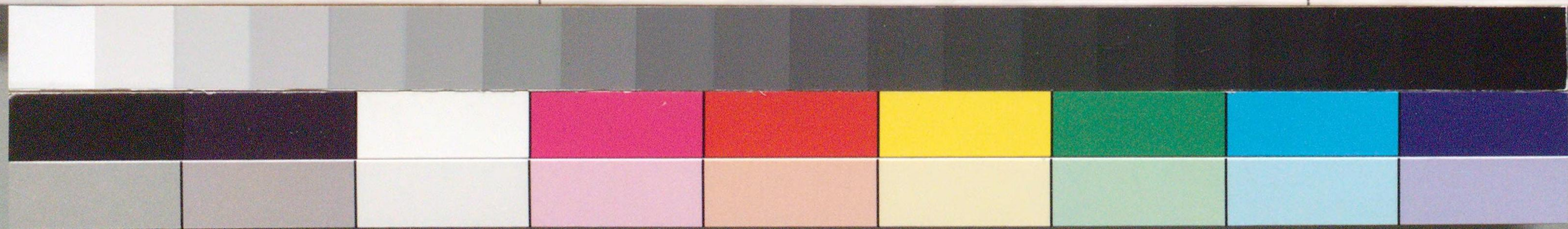
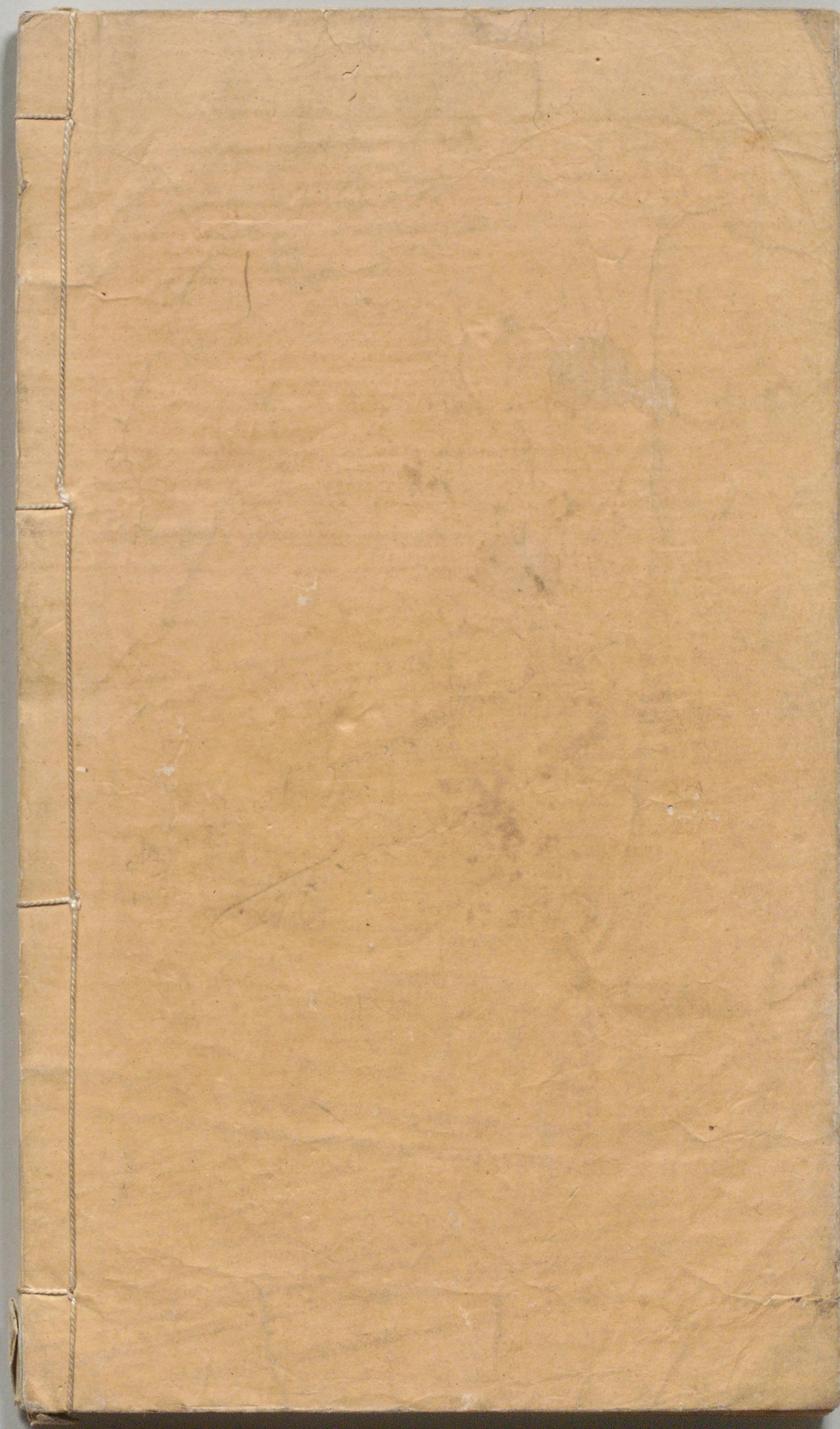
国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



伊藤博文文庫



国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206



国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 206